

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成13年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/373
Right	

1. オーラルメディシン講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	山根 源之	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00 0620 2)
	片桐 重雄	糖尿病性血管合併症と口腔内病変に関する研究 (A75 0620 1)
講師	外木 守雄	顎変形症患者の形態および機能異常の評価と治療法に関する研究 (A97 0620 1)
	福島 大平	4NQO 誘発ラット舌癌に対する 5-FU 徐放性局所注入治療法に関する研究 (A98 0620 1)
	森本 光明	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94 0620 2)
助手	小澤 靖弘	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98 0620 1)
	木津 康博	口腔乾燥症, シェーグレン症候群に関する基礎的ならびに臨床的研究 (A94 0620 1)
	森崎 重規	自己免疫性口腔粘膜疾患 (主として水疱形成疾患) の診断と治療 (A01 - 0620 1)
	蔵本 千夏	呼吸器管理下における感染部分のための口腔ケア方法 (A98 0620 2)
	渡邊 裕	口腔癌検診におけるスクリーニングのための検査法 (A98 0620 2)
	原口 孝之	骨の再生に関する研究 (A01 - 0620 2)
病院助手	武田 宇央	口腔乾燥症, シェーグレン症候群に関する基礎的ならびに臨床的研究 (A94 0620 1)
	高田 篤史	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98 0620 1)
	上野 正博	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00 0620 2)
	奥原 康行	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94 0620 2)
	小倉 基	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00 0620 2)
	大塚 裕	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94 0620 2)
	武安 嘉大	顎変形症患者の形態および機能異常の評価と治療法に関する研究 (A97 0620 1)
	中村 直史	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94 0620 2)
	前田 拓哉	4NQO 誘発ラット舌癌に対する 5-FU 徐放性局所注入治療法に関する研究 (A98 0620 1)
	飯田彩依子	4NQO 誘発ラット舌癌に対する 5-FU 徐放性局所注入治療法に関する研究 (A98 0620 1)
	潮田 高志	口腔乾燥症, シェーグレン症候群に関する基礎的ならびに臨床的研究 (A94 0620 1)
	渋谷 昌幸	骨の再生に関する研究 (A01 - 0620 2)
	杉本 幸一	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94 0620 2)
	田中 吉治	上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的, 臨床的研究 (A98 0620 1)
大学院生	岡崎雄一郎	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00 0620 2)
	岡村 泰斗	歯科用金属アレルギー診断と治療に関する研究 (A94 0620 2)
	佐藤 一道	早期舌癌の診断に関する実験的研究 (A00 0620 2)
	花上 伸明	口腔乾燥症, シェーグレン症候群に関する基礎的ならびに臨床的研究 (A94 0620 1)

- 加藤 順久 上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的，臨床的研究
(A98 0620 1)
- 上條 穂 骨の再生に関する研究 (A01 - 0620 2)
- 宇治川清登 上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的，臨床的研究
(A98 0620 1)

2. 成果の概要

1) 早期舌癌の診断に関する実験的研究

4 NQO 発癌モデルの early cancer 周囲の dysplasia 部において，高い頻度で β - catenin の細胞質・核内への集積を認めた．またその集積の一要因とされる β - catenin exon 3 領域の変異は認めなかった．本モデルの異型上皮は，ほぼ100%浸潤癌へ移行することから，exon 3 領域の変異を伴わない β - catenin の細胞質・核内への集積が発癌過程の早期の段階で関与していることが示唆された．

歯科学報 101, 925, 2001 .

2) 歯科用金属アレルギーの診断と治療に関する研究

感作動物を用いた口腔粘膜における遅延型過敏反応に関する実験的研究

金属アレルギーは皮膚領域では遅延型過敏反応 (Delayed - Type Hypersensitivity : DTH) とされている．その DTH は感作相および惹起相の 2 ステージに分かれており多数報告がある．しかし，口腔粘膜で感作が成立かどうかの検討は行われておらずまた，皮膚との検討もあまり行われていない．そこで，感作陽性物質である DNCB と金属試薬である $HgCl_2$ を用いマウスの背部皮膚および口腔粘膜において感作実験を行い比較検討を行った．その結果，DNCB, $HgCl_2$ において背部皮膚と同様に口腔粘膜で感作が認められ，口腔粘膜も皮膚と同様感作が成立する部位であると考えられた．また，口腔内に使用された歯科用金属によっても感作が起こる可能性が示唆された．

歯科学報 101, 92, 2001 .

3) 上顎骨および頬骨へのデンタルインプラント植立における基礎的，臨床的研究

頬骨と上顎骨によって支持される Zygomaticus fixture の基礎的研究として，日本人男性無歯顎屍体の頬骨の内部構造を観察した．観察には，非破壊的に骨の内部構造を観察することのできる極微小焦点 X 線 CT 装置 (μ CT) を用いた．その結果，頬骨前頭突起と頬骨弓の移行部付近において骨梁が密に存在していることが観察された．以上の結果から，埋入された Zygomatics fixture の先端部に相当する部位に骨梁が密に存在していることになり，fixture が咬合を支持する上で非常に有利であると考えられた．

口腔科会誌 50, 509, 2001 .

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
外木 守雄	放射線治療における口腔粘膜障害RBE(reaction of biological effect)の定量化とその修飾因子の研究	放射線医学総合研究所重粒子センター	千葉市	江 純悦
山根 源之	口腔癌の早期診断のための検査法の確立に関する研究	東京歯科大学社会歯科学研究室	千葉市	石井 拓男

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
山根 源之	口腔癌の早期診断のための検査法の確立に関する研究	科学研究費・基盤（C）
山根 源之	要介護老人の摂食障害発生要因に関する研究	厚生科学研究 長寿科学総合研究事業
森本 光明	歯科用金属アレルギー診断の客観化について	学長奨励研究
渡邊 裕	住民参加による地域保健活動の実態と促進に関する研究 歯科保健対策を中心として	財団法人長寿科学振興財団 健康科学総合研究推進事業 外国への日本人研究者派遣事業
渡邊 裕	摂食・嚥下機能障害回復過程での中枢における代償性変化に関する研究	科学研究費・奨励（A）

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジスト

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
武田 宇央	2001.4.7	放射線照射後の口腔乾燥症における一酸化窒素の役割	シェーグレン症候群市川セミナー	千葉市

論 文

- 1 . Abe, S.⁽¹⁾, Watanabe, Y., Tokioka, T.⁽¹⁾, Satou, T.⁽²⁾, Tazaki, M.⁽³⁾, Matsukubo, T.⁽⁴⁾, Yamane, G., Ide, Y.⁽¹⁾, Yamada, Y.⁽⁵⁾, Shimono, M.⁽⁶⁾, Ishikawa, T.⁽⁷⁾ : Investigation of genral control during voluntary deglutition, Bull Tokyo Dent Coll **42**(2), 128 ~ 130, 2001 . 原著 脳科学研 (1)解剖, (2)補綴 II, (3)生理, (4)衛生, (5)新潟大・大学院・顎顔面機能, (6)病理, (7)保存
- 2 . Takahashi, M.⁽¹⁾, Takao, T.⁽¹⁾, Watanabe, Y. : Neuromagnetic analysis of hand precision movements using magnetoencephalography(MEG) Bull Tokyo Dent Coll **42**(2), 136 ~ 137, 2001 . 原著 脳科学研 (1)市病・整形外科
- 3 . 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 森崎重規, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾ : 4 NQO ラット発癌モデルを用いた早期舌癌における β - catenin の局在に関する検討, 歯科学報 **101**(10), 925, 2001 . 原著 細生研実動施設 (1)市病・臨検
- 4 . 杉原直樹⁽¹⁾, 眞木吉信⁽¹⁾, 高江洲義矩⁽¹⁾, 渡邊 裕, 山根源之, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾, 菊地雅彦⁽³⁾, 渡辺 誠⁽³⁾, 佐々木啓一⁽⁴⁾, 菅 武雄⁽⁵⁾, 森戸光彦⁽⁵⁾, 福島正義⁽⁶⁾, 岩久正明⁽⁶⁾, 山田素子⁽⁷⁾, 佐藤雅志⁽⁷⁾, 長田 斎⁽⁸⁾ : 介護保険制度における口腔保健ケア・サービス体制に関する調査研究, 日歯医学会誌 **21**, 68 ~ 73, 2002 . 原著 (1)衛生, (2)歯麻, (3)東北大・大学院・加齢歯科, (4)東北大・大学院・顎口腔機能解析, (5)鶴見大・歯・高齢者歯科, (6)新潟大・歯・保存, (7)東京都多摩老人医療センター・歯口外, (8)杉並区保健福祉部

解 説

- 1 . 藤平弘子, 岩崎美和, 外木守雄, 山根源之 : 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応消化器系疾患, 歯衛士 **25**(4), 36 ~ 39, 2001 .
- 2 . 藤平弘子, 岩崎美和, 外木守雄, 山根源之 : 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応口腔の外傷性疾患, 歯衛士 **25**(5), 40 ~ 43, 2001 .
- 3 . 山根源之, 外木守雄, 藤平弘子, 岩崎美和 : 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応血液疾患, 歯衛士 **25**(6), 40 ~ 43, 2001 .
- 4 . 佐々木研一⁽¹⁾, 田村英俊⁽¹⁾, 綿引隆一郎⁽¹⁾, 小倉 基⁽¹⁾, 佐々木義郎⁽¹⁾, 野間弘康⁽²⁾, 矢島安朝⁽²⁾, 山根源之, 内山健志⁽³⁾, 山崎康夫⁽⁴⁾, 佐々木次郎⁽⁴⁾ : 医療用 X 線不透過性メジャーテープ(羅針絆)のインプラントへの応用, 歯界展望 **97**(6), 1357 ~ 1363, 2001 . (1)亀田総合病院, (2)口外 I, (3)口外 II, (4)東京都
- 5 . 山根源之, 外木守雄, 藤平弘子, 岩崎美和 : 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応中枢神経障害(急性期障害)でセルフケアが困難な人, 歯衛士 **25**(7), 60 ~ 63, 2001 .
- 6 . 藤平弘子, 岩崎美和, 外木守雄, 山根源之 : 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応感染症, 歯衛士 **25**(8), 50 ~ 54, 2001 .
- 7 . 藤平弘子, 岩崎美和, 外木守雄, 山根源之 : 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応 ICU, CCU 患者など急性期の患者, 歯衛士 **25**(9), 58 ~ 61, 2001 .

8. 藤平弘子, 岩崎美和, 外木守雄, 山根源之: 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応病状が慢性期(長期入院)にある人, 歯衛士 25(10), 56~60, 2001.
9. 山根源之: 痛みを和らげるためのくすりに対処法, 日歯医師会誌 54(7), 22~39, 2001.
10. 渡邊 裕: プロフェッショナルオーラルヘルスケアの効果について, 老年歯医 16(2), 277~282, 2001.
11. 藤平弘子, 岩崎美和, 森本光明, 外木守雄, 山根源之: 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応自己免疫疾患, 歯衛士 25(11), 60~62, 2001.
12. 岩崎美和, 藤平弘子, 山根源之, 外木守雄: 合併症を持った人に対するオーラルケア高齢者と基礎疾患を持つ患者への対応 Q&A こんな時はどうするの?, 歯衛士 25(12), 56~62, 2001.
13. 山根源之: 歯科小外科における縫合のポイント, 日歯医師会誌 54(11), 4~14, 2002.
14. 仙野真由⁽¹⁾, 小澤靖弘: 舌切除術舌癌における舌部分切除術, ナース専科 22(1), 28~31, 2002. (1)市病・看護部

単行図書

1. 山根源之^(a), ^(b), ^(c), ^(d), ^(e): 著分担: 医療禁忌マニュアル第2版^(a)歯科・口腔外科/絶対医療禁忌/検査 64~65頁, ^(b)歯科・口腔外科/絶対医療禁忌/治療 208~211頁, ^(c)歯科・口腔外科/相対医療禁忌/検査 324~325頁, ^(d)歯科・口腔外科/相対医療禁忌/治療 566~577頁, ^(e)歯科・口腔外科/相対医療禁忌/配合禁忌 658~663頁, 医歯薬出版, 東京, 2001.
2. 山根源之 分担翻訳: 著分担: ハンドブック歯科診療と全身管理 よりよいケアのために, 医歯薬出版, 東京, 2001.
3. 山根源之^(a), ^(b), ^(c), ^(d), ^(e): 著分担: ナースのための医療禁忌セルフチェック^(a)歯科・口腔外科 59頁, ^(b)歯科・口腔外科 109頁, ^(c)歯科・口腔外科 132~133頁, ^(d)歯科・口腔外科 145頁, ^(e)歯科・口腔外科 270~272頁, 南江堂, 東京, 2001.
4. 山根源之 分担執筆: 著分担: 看護のための最新医学講座, 第23巻歯科口腔系疾患, 中山書店, 東京, 2001.
5. 山根源之^(a): 著分担: 口内炎・口腔乾燥症の正しい口腔ケア^(a)紅斑あるいはびらん性口内炎 25~31頁, 医薬ジャーナル, 東京, 2001.
6. 中島庸也⁽¹⁾, 外木守雄: 共著: 耳鼻咽喉科・頭頸部外科11特集出もの腫れもの 患者への対応, 東京医学社, 東京, 2002. (1)市病・耳鼻科

その他

1. 山根源之: 日常臨床で見落とせない口腔粘膜疾患, 日歯医師会誌 6(576), 59, 2001.

2. 池田英治⁽¹⁾, 池田 作⁽²⁾, 石川達也⁽³⁾, 石橋克禮⁽⁴⁾, 大浦 清⁽⁵⁾, 坂上 宏⁽⁶⁾, 坂本春生⁽⁷⁾, 佐藤田鶴子⁽⁸⁾, 澤木康平⁽⁹⁾, 下村博武⁽²⁾, 鈴木長明⁽¹⁰⁾, 須田英明⁽¹¹⁾, 成瀬 悟⁽²⁾, 野間弘康⁽¹¹⁾, 山根源之: 特集痛みを和らげるためのくすりに対処法, 日歯医学会誌 **54**(7), 8 ~ 39, 2001. (1)東医歯大・大学院・摂食機能保存, (2)日本歯科医師会薬剤部会委員, (3)保存 III, (4)鶴見大・歯・口外, (5)大歯大・薬理, (6)明海大・歯・歯科薬理, (7)東海大・医・歯口外, (8)日歯大・口外, (9)日本歯科医師会機材薬剤室, (10)東医歯大・大学院・口腔機能再建学, (11)口外

学会抄録

1. 中村直史, 武安嘉大, 佐藤一道, 森崎重規, 山根源之, 外木守雄: 口蓋の唾液腺腫瘍を疑った necrotizing sialometaplasia, 頭頸部腫瘍 **27**(2), 560, 2001. (第25回頭頸部腫瘍学会, 東京)
2. 渡邊 裕, 上條 穂, 潮田高志, 奥原康行, 保立晴美⁽¹⁾, 藤平弘子, 森崎重規, 蔵本千夏, 外木守雄, 山根源之: 長期入院患者における口腔ケアについて, 第22回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 47, 2001. (第22回日本老年学会総会, 大阪市) (1)医療法人鳳生会藤立病院
3. 高橋慎一⁽¹⁾, 山根源之, 森本光明, 岡村泰斗: 感作動物を用いた口腔粘膜における遅延型過敏反応に関する実験的研究, 歯科学報 **101**(6), 568 ~ 611, 2001. (第271回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 実動施設 (1)市病・皮膚科
4. 木津康博, 上條 穂, 羽田明史, 多田和弘, 原口孝之, 森崎重規, 蔵本千夏, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 森本光明, 福島大平, 外木守雄, 山根源之, 西田次郎⁽¹⁾, 高橋正憲⁽²⁾: 歯科・口腔外科領域における救急搬送患者の実態と問題点, 歯科学報 **101**(6), 568, 2001. (第271回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)市病・内科, (2)市病・整形外科
5. 馬場里奈, 古川真由, 合原 愛, 伊多波怜子, 竹下陽子, 岩崎美和, 藤平弘子, 蔵本千夏, 森崎重規, 森本光明, 山根源之, 今井光枝⁽¹⁾, 小関真理子⁽¹⁾, 杉原直樹⁽¹⁾, 眞木吉信⁽¹⁾, 松久保 隆⁽¹⁾, 宮越 敬⁽²⁾, 富永英一郎⁽²⁾, 黒島正子⁽²⁾, 佐久間雄一⁽²⁾, 赤星晃一⁽²⁾, 兼子 智⁽²⁾, 郡山 智⁽²⁾, 田邊清男⁽²⁾: 妊婦の口腔内所見と低体重児早産の関連, 歯科学報 **101**(6), 570, 2001. (第271回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)衛生, (2)市病・産婦人科
6. 岡村泰斗, 森本光明, 山根源之, 高橋慎一⁽¹⁾: 感作動物を用いた口腔粘膜における遅延型過敏反応に関する実験的研究, 歯科学報 **101**(6), 576, 2001. (第271回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)市病・皮膚科
7. 渡邊 裕, 山根源之, 高橋正憲⁽¹⁾, 阿部伸一⁽²⁾, 井出吉信⁽²⁾, 下野正基⁽³⁾, 石川達也⁽⁴⁾: 随意運動における運動準備脳磁場計測に関する研究, 歯科学報 **101**(6), 594, 2001. (第271回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 脳科学研 (1)市病・整形外科, (2)解剖, (3)病理, (4)保存
8. 森本光明, 岡村泰斗, 奥原康行, 森崎重規, 福島大平, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾, 高橋慎一⁽²⁾: 口腔粘膜に症状を有した尋常性天疱瘡の診断 抗デスマグレイン抗体価測定の臨床的意義, 第11回日本口腔粘膜学会・学術集会プログラム・抄録集 **11**, 50, 2001. (第11回日本口腔粘膜学会, 広島市) (1)市病・臨検, (2)市病・皮膚科
9. 田中吉治, 島田隆光, 木津康博, 福島大平, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾: 短期間に著名な増大を認めた膿原性肉芽腫の1例, 日口腔外会誌 **47**(7), 473, 2001. (第46回社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 鹿児島市) (1)市病・臨検

10. 渡辺洋一⁽¹⁾, 神尾 崇⁽²⁾, 藤波 淳⁽²⁾, 田村耕一郎⁽²⁾, 藤川真紀⁽²⁾, 宮尾 孝⁽²⁾, 高木多加志⁽²⁾, 野間弘康⁽²⁾, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之: インターネットを利用した外科的矯正患者の治療と管理, 日顎変形会誌 11(2), 2001. (第11回日本顎変形症学会, 大阪市) (1)千葉県, (2)口外
11. 小澤靖弘, 飯田彩依子, 森崎重規, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之: 上顎骨移動術後の安定性について (第1報) 当科で行っている術式について, 日顎変形会誌 11(2), 120, 2001. (第11回日本顎変形症学会総会, 東京)
12. 外木守雄, 飯田彩依子, 森崎重規, 渡邊 裕, 山根源之, 小澤靖弘: 上顎骨移動術後の安定性について (第2報) 鼻腔通気度について, 日顎変形会誌 11(2), 120~121, 2001. (第11回日本顎変形症学会, 東京)
13. 浅香大也⁽¹⁾, 松脇由典⁽¹⁾, 久納 淨⁽¹⁾, 中島庸也⁽¹⁾, 佐藤一道, 渡邊 裕, 山根源之: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装具の適応について, 口腔咽喉科 14(1), 133, 2001. (第14回日本口腔・咽喉科学会総会, 東京) (1)市病・耳鼻科
14. 飯田尚紀⁽¹⁾, 石井宏昭⁽¹⁾, 野村明日香⁽¹⁾, 瀬戸皖一⁽¹⁾, 渡邊 裕, 山崎博嗣: 多施設共同研究による歯科用アラームシステムの開発, 日口腔科会誌 50(5), 338, 2001. (第34回日本口腔科学会関東地方部会, 東京) (1)鶴見大・歯・口外
15. 渋谷昌幸, 岡村泰斗, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾: 著名な紅斑を呈した歯科金属アレルギーによる接触性粘膜炎の1例, 日口腔科会誌 50(5), 345, 2001. (第34回日本口腔科学会関東地方部会, 東京) (1)市病・臨検
16. 石井拓男⁽¹⁾, 岡田真人⁽¹⁾, 大川由一⁽²⁾, 今村嘉宣⁽³⁾, 山根源之, 宮武光吉⁽⁴⁾: 要介護高齢者の歯科疾患発生要因に関する研究 第1報 歯科疾患の主訴発生時期, 口腔衛会誌 51(4), 700~701, 2001. (第50回日本口腔衛生学会・総会, 名古屋市) (1)社会歯, (2)千葉県立衛生短大・歯科衛生, (3)神奈川県, (4)鶴見大・歯・社会歯
17. 岩崎美和, 藤平弘子, 木津康博, 外木守雄, 山根源之: 著明な歯槽提萎縮を呈した上顎無歯顎症例におけるインプラント治療その2 メンテナンスについて, 第31回日本口腔インプラント学会総会・学術大会抄録集, 68, 2001. (第31回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 福岡市)
18. 渡邊 裕, 阿部伸一⁽¹⁾, 山根源之, 山田好秋⁽²⁾: MEGによる随意的嚥下運動に関する研究, 第7回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム, 69, 2001. (第7回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 東京) 脳科学研 (1)解剖, (2)新潟大・大学院・顔面機能
19. 潮田高志, 森崎重規, 森本光明, 福島大平, 山根源之, 外木守雄: 口腔内症状の迅速な診断が AIDS 患者の早期診断と治療に有用であった一例, 日口腔診断会誌 14(2), 585, 2001. (第14回日本口腔診断学会, 東京)
20. 藤川真紀⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 高木多加志⁽¹⁾, 高崎義人⁽²⁾, 渡邊 裕, 外木守雄, 山根源之: 下顎枝矢状分割術後のオトガイ神経知覚検査に関する臨床的研究 第4報 自覚症状について, 第46回日本口腔外科学会総会プログラム・抄録集, 39, 2001. (第46回日本口腔外科学会総会, 鹿児島市) (1)口外, (2)水病・口外科

21. 木津康博, 加藤順久, 外木守雄, 山根源之: 著明な歯槽提萎縮を呈した上顎無歯顎症例におけるインプラント治療その1 骨移植による絶対的歯槽提形成術と頬骨に支持を求めた Zygomaticus fixture との比較検討, 第31回日本口腔インプラント学会総会・学術大会抄録集, 84, 2001. (第31回口腔インプラント学会総会・学術大会, 福岡市)
22. 田中元康⁽¹⁾, 外木守雄: line's corticotomy を併用した成人交叉咬合症例, The Japanese Orthodontic Society, 2001. (Diamond Anniversary Commemorative Meeting, 東京) (1)東京都
23. 徳永啓太, 神谷咲希子, 武安嘉大, 佐藤一道, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 外木守雄, 山根源之: 当科における顎関節症患者の臨床統計的検討, 日口腔外会誌, 165, 2001. (第46回日本口腔外科学会総会, 鹿児島市) P5 - 3
- 3
24. 田村英俊⁽¹⁾, 佐々木研一⁽¹⁾, 綿引隆一郎⁽¹⁾, 小倉 基⁽¹⁾, 山根源之, 外木守雄, 小澤靖弘, 木津康博, 渡邊 裕, 林 亨⁽²⁾: SF36を用いた顎関節症患者における QOL 評価, 第46回日本口腔外科学会総会プログラム・抄録集, 165, 2001. (第46回日本口腔外科学会総会, 鹿児島市) (1)亀田総合病院・歯口外, (2)千葉県
25. 神谷咲希子, 徳永啓太, 武安嘉大, 佐藤一道, 渡邊 裕, 小澤靖弘, 外木守雄, 山根源之: 当科における顎関節症患者の臨床統計的検討 第2報治療および経過について, 日口腔外会誌, 166, 2001. (第46回日本口腔外科学会総会, 鹿児島市)
26. 森本光明: 歯科用金属アレルギー診断の客観化について, 歯科学報 101(10), 924, 2001. (第272回東京歯科大学学会総会, 千葉市)
27. 原口孝之, 渡邊 裕, 森崎重規, 木津康博, 小澤靖弘, 森本光明, 福島大平, 外木守雄, 山根源之, 高橋正憲⁽¹⁾: 顎口腔疾患治療前後の歩行機能について, 日全身咬合会誌 11, 25, 2001. (第11回日本全身咬合学会学術大会, 千葉市) (1)市病・整形外科
28. 倉繁昌志, 大塚 裕, 小澤靖弘, 森本光明, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾: 線維性エプーリスと診断され切除後再発を繰り返した粘液腫の1例, 日口腔科会誌48(1), 54, 2002. (第46回社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 松戸市) (1)市病・臨検
29. 丸岡靖史⁽¹⁾, 安藤智博⁽¹⁾, 桑澤隆補⁽¹⁾, 扇内秀樹⁽¹⁾, 朝波惣一郎⁽²⁾, 高森康次⁽²⁾, 岩淵博史⁽²⁾, 山根源之, 外木守雄, 小澤靖弘, 田中陽一⁽³⁾, 千葉博茂⁽⁴⁾, 金子忠良⁽⁴⁾, 渡辺正人⁽⁴⁾: 口腔癌に対する Nedaplatin (CDGP)と5-FUの併用療法の検討, 第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会プログラム抄録集, 95, 2002. (第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会, 岡山市) (1)東京女子医大・医・歯口外, (2)慶大・医・歯口外, (3)市病・臨検, (4)東京医大・医・口外
30. 斎藤麻帆, 宇治川清登, 岡崎雄一郎, 奥原康行, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾: 口底部に発生した Basaloid squamous cell carcinoma, 第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会プログラム抄録集, 98, 2002. (第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会, 岡山市) 脳科学研 (1)市病・臨検
31. 佐藤一道, 岡崎雄一郎, 森崎重規, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾: 4NQO ラット発癌モデルを用いた早期舌癌における β -catenin の局在異常に関する検討, 第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会プログラム抄録集, 106, 2002. (第20回日本口腔腫瘍学会ならびに学術大会, 岡山市) 実動施設 (1)市病・臨検

32. 加藤朋子, 内田 淳, 原口孝之: 下顎角部に発生した intramuscular myxoma の一例, 第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会プログラム抄録集, 146, 2002. (第20回日本口腔腫瘍学会総会ならびに学術大会, 岡山市)
33. 竹下陽子, 合原 愛, 古川真由, 馬場里奈, 藤平弘子, 奥原康行, 森崎重規, 福島大平, 森本光明, 山根源之: 歯周治療により掌蹠膿疱症の改善を認めた3症例, 日歯周病会誌 **44** 春季特別号), 202, 2002. (第45回春季学術大会, 浦安市)
34. 多田和弘, 外木守雄, 山根源之, 田中陽一⁽¹⁾: 口蓋部に発生した神経鞘粘液腫の1例, 第12回日本口腔病理学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 20, 2002. (第12回日本口腔病理学会総会・学術大会, 鹿児島市)(1) 市病・臨検

2. 内 科 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	森下 鉄夫	胃微小循環，茶カテキンの薬理作用
講 師	笠谷 知宏	1型糖尿病の発生機序に関する研究
	仁科 牧子	筋ジストロフィーに対する治療的研究
	寺嶋 毅	浮遊微粒子の健康に及ぼす影響 (A99 0630 1)
助 手	荒川 幸喜	血管作動性物質と腎微小循環
	野本 佳子	糖尿病性腎症の腎糸球体基底膜に関する研究
	関口 康宣	膠原病

2. 成果の概要

1) 浮遊微粒子の健康に及ぼす影響 (A99 0630 1)

大都市部の浮遊微粒子の30～40%をしめるディーゼル排気微粒子と肺胞マクロファージを培養すると肺胞マクロファージからの炎症性サイトカインの産生が抑制されることを日本呼吸器病学会総会，アメリカ呼吸器学会にて報告した．大気中の浮遊微粒子の増加に伴う肺炎入院数の増加が報告されており，免疫能の低下が示唆される．現在，ディーゼル排気微粒子の好中球機能に及ぼす影響も検討中である．

Am J Respir Crit Care Med 163, A362, 2001.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学 外 研 究 施 設		
		研究施設	所在地	責任者
寺嶋 毅	浮遊微粒子の健康に及ぼす影響	University of British Columbia, Pulmonary Research Laboratory, St. Paul Hospital	Vancouver, B. C. Canada	James C. Hogg

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
寺嶋 毅	気管支喘息の病態におけるロイコトリエンの関与	科学研究費・奨励 (A)

論 文

- 1 . Terashima, T., Amakawa, K.⁽¹⁾, van Eeden, S.⁽²⁾, Hogg, J. C.⁽²⁾, Yamaguchi, K.⁽¹⁾ : BAL induces an increase in peripheral blood neutrophils and cytokine levels in healthy volunteers and patients with pneumonia, *Chest* **119**(6), 1724 ~ 1729, 2001 . 原著 (1)慶大・医・内科, (2)University of British Columbia
- 2 . Hisamatsu, T., Kishikawa, H.⁽¹⁾, Fukuya, H., Matsuoka, K., Mizuno, Y., Nishida, J.⁽¹⁾ : Combination therapy including pentoxifylline for entero - Behcet's disease, *Bull Tokyo Dent Coll* **42**(3), 169 ~ 176, 2001 . 臨床 (1)市病・消化器科
- 3 . 川田一郎, 寺嶋 毅, 今井直彦, 齋木厚人⁽¹⁾, 関口康宣, 細江伸央⁽¹⁾, 岸川 浩⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 野本佳子, 福谷英成, 荒川幸喜, 仁科牧子, 笠谷知宏, 西田次郎⁽¹⁾, 田中陽一⁽²⁾, 古谷義隆⁽³⁾, 笠原清弘⁽³⁾, 矢島安朝⁽³⁾, 野間弘康⁽³⁾ : 若年発症の舌癌と肺癌の重複癌の一例, *歯科学報* **101**, 953, 2001 . 症例 (1)市病・消化器科, (2)市病・臨検, (3)口外
- 4 . Nakajima, T., Terashima, T., Nishida, J.⁽¹⁾, Onoda, M.⁽²⁾, Koide, O.⁽²⁾ : Treatment of bronchorrhea by corticosteroids in a case of bronchioalveolar carcinoma producing CA19 - 9 , *Intern Med* **41**(3), 225 ~ 228, 2002 . 症例 (1)市病・消化器科, (2)市病・臨検

学会抄録

- 1 . Amakawa, K.⁽¹⁾, Terashima, T., Matsumaru, A., Yamaguchi, K.⁽¹⁾ : Suppressive effects of diesel exhaust particles on cytokine release from alveolar macrophages, *Am J Respir Crit Care Med* **163**(5), A362, 2001 . (American Thoracic Society 2001 International Conference, San Francisco, USA) 脳科学研 (1)慶大・医・内科
- 2 . Terashima, T., Matsumaru, A., Yamaguchi, K.⁽¹⁾ : Predictive factors of clinical responses to leukotriene receptor antagonist, *Am J Respir Crit Care Med* **163**(5), A431, 2001 . (American Thoracic Society 2001 International Conference, San Francisco, USA) (1)慶大・医・内科
- 3 . Nakajima, T.⁽¹⁾, Nakamura, H.⁽¹⁾, Tateno, H.⁽¹⁾, Minematsu, N.⁽¹⁾, Terashima, T., Asano, K.⁽¹⁾, Fujishima, S.⁽¹⁾, Ishizaka, A.⁽¹⁾, Fukui, H.⁽²⁾, Yamaguchi, K.⁽¹⁾ : Elevation of cystatin C concentrations in epithelial lining fluid in patients with interstitial lung diseases, *Am J Respir Crit Care Med* **163**(5), A706, 2001 . (American Thoracic Society 2001 International Conference, San Francisco, USA) (1)慶大・医・内科, (2)CIS Diagnostic K. K.
- 4 . 野本佳子, 笠谷知宏, 寺嶋 毅, 仁科牧子, 西田次郎⁽¹⁾, 高尾 努⁽²⁾, 高橋正憲⁽²⁾ : 糖尿病に合併した下肢非クロストリジウム性ガス壊疽と化膿性膝関節炎を保存的に治癒しえた一例, 第493回日本内科学会関東地方会演題要旨, 26, 2001 . (第493回日本内科学会関東地方会, 東京) (1)市病・消化器科, (2)市病・整形外科
- 5 . 今井直彦, 岸川 浩⁽¹⁾, 細江伸央⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 小野田清香, 西田次郎⁽¹⁾, 森下鉄夫, 田中陽一⁽²⁾, 小出 紀⁽²⁾ : 急性腹症で発症した解離性大動脈瘤の一例, *医薬の門*, 2001 . (第13回千葉 Critical Care Medicine 研究会, 千葉市) (1)市病・消化器科, (2)市病・臨検

- 6 . 川田一郎, 岸川 浩⁽¹⁾, 細江伸央⁽¹⁾, 中野 雅⁽¹⁾, 西田次郎⁽¹⁾: HBV キャリアの急性増悪例に対するラミブジンの使用経験, 第10回東葛肝疾患症例検討会抄録集, 2001 . (第10回東葛肝疾患症例検討会, 東京) (1)市病・消化器科
- 7 . 寺嶋 毅, 天川和久⁽¹⁾, 山口佳寿博⁽¹⁾: 気管支喘息患者白血球からのロイコトリエン産生とプラシランの効果, 日呼吸会誌 **39**, 231, 2001 . (第41回日本呼吸器学会総会, 東京) (1)慶大・医・内科
- 8 . 天川和久⁽¹⁾, 寺嶋 毅, 嵯峨井 勝⁽²⁾, 山口佳寿博⁽¹⁾: 肺胞マクロファージのサイトカイン産生に及ぼすディーゼル排気微粒子の効果, 日呼吸器会誌 **39**, 266, 2001 . (第41回日本呼吸器学会総会, 東京) (1)慶大・医・内科, (2)国立環境研究所
- 9 . 松崎 達⁽¹⁾, 寺嶋 毅, 松丸明子, 天川和久⁽¹⁾, 山口佳寿博⁽¹⁾: ディーゼル微粒子曝露による肺胞マクロファージのアポトーシスの誘導, 日呼吸会誌 **39**, 266, 2001 . (第41回日本呼吸器学会総会, 東京) (1)慶大・医・内科
- 10 . Morishita , T . : Effect of tea catechins on gastrointestinal functions - with special reference to microcirculation , 27th Pan - American Congress of Digestive Diseases Program , 4 , 2001 . (27th Pan - American Congress of Digestive Diseases , Lima , Peru)
- 11 . 森下鉄夫, 岩橋宏美⁽¹⁾, 今井直彦, 川田一郎, 齋木厚人⁽²⁾, 細江伸央⁽²⁾, 岸川 浩⁽²⁾, 中野 雅⁽²⁾, 西田次郎⁽²⁾, 石井裕正⁽³⁾: 表層性胃炎の微小循環学的検討, 第27回日本微小循環学会総会プログラム・抄録集 **48**, 2002 . (第27回日本微小循環学会総会, 東京) (1)静岡赤十字病院消化器科, (2)市病・消化器科, (3)慶大・医・内科

3. 外 科 学 講 座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	安藤 暢敏	食道がんの集学的治療の研究
	田中 豊治	T式シートによる癒着性イレウス，癌性腹膜炎の治療（A88 0650 4）
助 教 授	正村 滋	血中，リンパ節中の微小がん細胞の臨床的意義（A97 0650 1）
助 手	佐藤 道夫	TISSU ENGINEERING 法を用いた代用食道の研究
	小川 信二	胃癌の進展形式と間質（A94 0650 6）
	石 志紘	食道扁平上皮癌における血管新生（A98 0650 2）
	石井 良幸	胃癌の転移機構における細胞接着因子インテグリンの役割に関する検討
	小熊 潤也	

2. 成果の概要

本邦ではこれまで外科的切除が食道がんに対する標準治療とされて来たが，その一方でごく早期の粘膜がんには内視鏡的粘膜切除術が，周囲臓器浸潤や遠隔リンパ節転移を伴った高度進行がんには化学放射線併用療法が積極的に行われるようになり，がんの進行度により治療選択の幅が拡大し，治療の個別化が進んで来た．

このような情勢の中で，厚生労働省がん研究助成金指定研究「消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究」班のJCOG 食道がんグループでは，1978年のグループ発足以来継続して行ってきた手術補助療法の第Ⅲ相ランダム化比較試験を中心に，Stagel 食道がんや高度進行食道がんに対する化学放射線併用療法の第Ⅱ相試験などを併行して行ってきた．安藤はグループ代表として以下の3試験を積極的に遂行中である．

臨床病期Ⅱ期およびⅢ期胸部食道がんに対する5FU+シスプラチン術前補助化学療法と術後補助化学療法のランダム化比較試験（第6次研究）

Stael T1N0M0 食道がんに対する放射線と抗癌剤同時併用療法の第Ⅱ相試験

進行食道がんおよび切除後再発例に対するネダプラチン+5-FU 併用療法の第Ⅱ相試験

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学 外 研 究 施 設		
		研究施設	所在地	責任者
安藤 暢敏	食道がんの集学的治療の研究	厚生労働省	東京	安藤 暢敏

4. 科研費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
安藤 暢敏	培養ヒト食道壁構成細胞を用い血管新生作用を付加した組織再構築型人工食道の開発	科学研究費・基盤（C）

5. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者	年月日	学会・研究会	会場	主催地
田中 豊治	2001.11.29	第14回日本外科感染症研究会	サンルートプラザ東京	浦安市

6. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
安藤 暢敏	2001.7.27	食道癌の手術術式と周術期管理 術式選択	第55回日本消化器外科学会総 会教育集会	秋田市

解 説

- 1 . 安藤暢敏：切除可能食道癌の手術補助療法 有効か無効か ，臨外 57(2) , 199 ~ 203 , 2002 .
- 2 . 安藤暢敏，石 志紘：食道癌の治療 5)食道癌の化学療法，日外会誌 103(4) , 359 ~ 363 , 2002 .

単行図書

- 1 . Ogawa, S.(a), Yoshino, K.(a), Tanaka, T.(a), Ono, S.(a), Shin, C.(a), Hattori, H.(a)：著分担：4th International Gastric Cancer Congress(a)Modified Distal Gastric Resection for Early Gastric Cancer 975 ~ 977頁，MON-DUZZI EDITORE, Bologna , 2001 .
- 2 . 安藤暢敏(a)：著分担：消化器外科周術期管理のすべて(a)結腸再建，血管吻合を伴う食道癌手術41 ~ 45頁，MEDICL VIEW，東京，2002 .

プロシーディングス

- 1 . 小熊潤也，田中豊治，安藤暢敏，正村 滋，小川信二，石 志紘，石井良幸：大腸手術における洗浄後腹腔内遺残細菌の分布動態について，日外感研 14(1) , 1 ~ 7 , 2002 . (第14回日本外科感染症研究会，浦安市)

学会抄録

- 1 . 田中豊治，吉野肇一，小野成夫，小川信二，石 志紘，服部裕昭，落合大樹：高度癒着性イレウスに対する根治術(医療用シリコン性薄膜を用いて)，日外会誌 102(臨) , 204 , 2001 . (第101回日本外科学会定期学術集会，仙台市)
- 2 . 石 志紘，小澤壮治⁽¹⁾，安藤暢敏，北川雄光⁽¹⁾，上田政和⁽¹⁾，北島政樹⁽¹⁾：食道扁平上皮癌に対する VEGF C の発現とその臨床的意義，日消外会誌 34(7) , 252 , 2001 . (第56回日本消化器外科学会総会，秋田市)(1)慶應義塾大学一般消化器外科
- 3 . 田中豊治，小野成夫，小川信二，石 志紘，服部裕昭，落合大樹：腸管癒着防止用シート(T式リザーバー・シート)による QOL を考慮した StageIV 胃癌の治療，日消外会誌 34(7) , 292 , 2001 . (第56回日本消化器外科学会総会，秋田市)
- 4 . 安藤暢敏：「外科的治療法における臨床試験の問題点」手術補助療法を評価する臨床試験において手術に求められるもの 食道がん手術の場合 ，日癌治 36(1) , 83 , 2001 . (第39回日本癌治療学会総会，広島市)
- 5 . 安藤暢敏：「食道破裂の診断と治療」特別発言，日腹部救急医学会誌 22(2) , 178 , 2002 . (第38回日本腹部救急医学会総会，下関市)

4. 循環器科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講 師	大木 貴博	虚血性心疾患
	佐伯 公子	不整脈
助 手	船津 陽子	不整脈
	岡田 豊	不整脈

2. 成果の概要

臨床研究においては頻脈性不整脈の患者に対し電気生理学検査及び薬効により評価し、頻拍の機序の解明と共に、カテーテルアブレーションによる根治治療を施行している。虚血性心疾患の症例に対しては心臓カテーテル検査を施行し、必要に応じて経皮的冠動脈形成術を施行している。

学会抄録

1. 佐伯公子：難治性心房細動に対するペブリジルとⅠ群抗不整脈薬の併用療法の効果，Circ J 66(Suppl. 1),776，2002．(第66回日本循環器病学会，札幌市)

5. 消化器科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	西田 次郎	エンドトキシン処理機構における Kupffer 細胞と肝細胞の役割 (A95 0775 1)
助手	中野 雅	大腸癌転移機構における Rac 1 遺伝子の機能解析 (A02 0775 2)
	岸川 浩	腸上皮細胞増殖に関する研究
	平野江利香	ヘリコバクター・ピロリ感染症と上部消化管疾患に関する研究

2. 成果の概要

1) 大腸癌転移機構における Rac 1 遺伝子の機能解析 (A02 0775 2)

プラスミドベクター pcDNA3.1 を用いて Rac 1 constitutive active form V12 を COS 細胞に強制発現させた外因性 Rac 1 タンパク質が、内因性の Rac 1 タンパク質に比して有意に増加していることを確認した後、12 種類の大腸癌細胞株 (Caco-2, Colo201, Colo205, Colo320DM, HCT15, SW1116, HT29, DLD-1, NCI-H716, LoVo, HT29N2, T84) と Human Glioblastoma HTB26, Mouse swiss 3 T 3 の計 14 種の細胞株において Rac 1 タンパク質の発現量を検討した。Western blot において総 Rac 1 の発現量は 14 種すべての細胞株でほぼ同等であった。次に PBD pull down assay と immunoblot 法を用いて活性化型 Rac 1 の発現量を検討すると、総 Rac 1 の発現は同等であるにもかかわらず、活性化型 Rac 1 の発現は細胞株により異なり、LoVo, DLD1, HTB26 は非常に高く、T84, HT29N2, HCT 15 は極めて低かった。次にこれらの細胞株より RNA を抽出、RT-PCR 法にて Rac 1 cDNA を生成した後 sequence を行い Rac 1 遺伝子の mutation について検討した。過去の報告と同様すべての細胞株において Rac 1 の mutation は認められなかった。現在各種細胞株の活性化型 Rac 1 の発現の違いがどのような機能に影響を及ぼすかを追究するために、細胞の増殖能、浸潤能についての検討を開始している。

2) 腸上皮細胞増殖に関する研究

80mmHg をピークとする圧力負荷 (経壁圧) により小腸上皮細胞から IL-6 の放出が増加することを、これまでに第 85 回日本消化器病学会総会、第 97 回アメリカ消化器病学会にて報告してきた。さらに、圧力負荷に伴い、IL-6 が mRNA レベルでも増加していること、NF- κ B や NF-IL-6 が活性化していること、IL-6 の放出が NF- κ B を介した経路で活性化されていることを報告した。今後、粘膜損傷モデルにおいて圧力負荷がいかなる影響を及ぼすのか、また、圧力負荷が小腸上皮細胞において bacterial translocation を惹起するかを検討していきたい。

Clinical Experimental Immunology 129(1), 86~91, 2002.

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
中野 雅	大腸癌細胞の転移能形質獲得過程における Rac 1 遺伝子の機能解析	科学研究費・基盤 (C)

4. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者	年月日	学会・研究会	会 場	主催地
西田 次郎	2001 .12 20	第10回東葛肝疾患症例検討会	ホテルインターコンチネンタル東京ベイ	東京

論 文

- 1 .Hisamatsu, T., Kishikawa, H., Fukuya, H.⁽¹⁾, Matsuoka, K.⁽¹⁾, Mizuno, Y.⁽¹⁾, Nishida, J. : Combination therapy including pentoxifylline for entero - Behcet's disease., Bull Tokyo Dent Coll **42**(3), 169 ~ 176 , 2001 . 症例 (1)市病・内科
- 2 . Nakajima, T.⁽¹⁾, Terashima, T.⁽¹⁾, Nishida, J., Onoda, K.⁽¹⁾, Koide, O.⁽²⁾ : Treatment of bronchorrhea by corticosteroids in a case of bronchioloalveolar carcinoma producing CA19 - 9, Intern Med **41**(3), 225 ~ 228 , 2002 . 症例 (1)市病・内科, (2)市病・臨検

学会抄録

- 1 . 木津康博⁽¹⁾, 上條 穂⁽¹⁾, 羽田明史⁽¹⁾, 多田和弘⁽¹⁾, 原口孝之⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 蔵本千夏⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 福島大平⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 西田次郎, 高橋正憲⁽²⁾ : 歯科・口腔外科領域における救急搬送患者の実態と問題点, 歯科学報 **101**, 569, 2001 . (第271回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)市病・オーラルメディスン, (2)市病・整形外科
- 2 . 野本佳子⁽¹⁾, 笠谷知宏⁽¹⁾, 寺嶋 毅⁽¹⁾, 仁科牧子⁽¹⁾, 西田次郎, 高尾 努⁽²⁾, 高橋正憲⁽²⁾ : 糖尿病に合併した下肢非クロストリジウム性ガス壊疽と化膿性膝関節炎を保存的に治癒しえた1例, 第493回日本内科学会関東地方会演題要旨, 26, 2001 . (第493回日本内科学会関東地方会, 東京) (1)市病・内科, (2)市病・整形外科
- 3 . 川田一郎⁽¹⁾, 寺嶋 毅⁽¹⁾, 今井直彦⁽¹⁾, 齋木厚人, 関口康宣⁽¹⁾, 細江伸央, 岸川 浩, 中野 雅, 野本佳子⁽¹⁾, 福谷英成⁽¹⁾, 荒川幸喜⁽¹⁾, 仁科牧子⁽¹⁾, 笠谷知宏⁽¹⁾, 西田次郎, 田中陽一⁽²⁾, 古谷義隆⁽³⁾, 笠原清弘⁽³⁾, 矢島安朝⁽³⁾, 野間弘康⁽³⁾ : 若年発症の舌癌と肺癌の重複癌の1例, 歯科学報 **101**, 953, 2001 . (第272回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)市病・内科, (2)市病・臨検, (3)口外
- 4 . 川田一郎⁽¹⁾, 寺嶋 毅⁽¹⁾, 今井直彦⁽¹⁾, 齋木厚人, 関口康宣⁽¹⁾, 細江伸央, 岸川 浩, 中野 雅, 野本佳子⁽¹⁾, 福谷英成⁽¹⁾, 荒川幸喜⁽¹⁾, 仁科牧子⁽¹⁾, 笠谷知宏⁽¹⁾, 西田次郎, 田中陽一⁽²⁾, 古谷義隆⁽³⁾, 笠原清弘⁽³⁾, 矢島安朝⁽³⁾, 野間弘康⁽³⁾ : 若年発症の舌癌と肺癌の重複癌の1例, 歯科学報 **101**, 953, 2001 . (第272回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)市病・内科, (2)市病・臨検, (3)口外
- 5 . 川田一郎⁽¹⁾, 寺嶋 毅⁽¹⁾, 今井直彦⁽¹⁾, 齋木厚人, 関口康宣⁽¹⁾, 細江伸央, 岸川 浩, 中野 雅, 野本佳子⁽¹⁾, 福谷英成⁽¹⁾, 荒川幸喜⁽¹⁾, 仁科牧子⁽¹⁾, 笠谷知宏⁽¹⁾, 西田次郎, 田中陽一⁽²⁾, 古谷義隆⁽³⁾, 笠原清弘⁽³⁾, 矢島安朝⁽³⁾, 野間弘康⁽³⁾ : 若年発症の舌癌と肺癌の重複癌の1例, 歯科学報 **101**, 953, 2001 . (第272回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)市病・内科, (2)市病・臨検, (3)口外
- 6 . 川田一郎⁽¹⁾, 岸川 浩, 細江伸央, 中野 雅, 西田次郎 : HBV キャリアの急性増悪例に対するラミブジンの使用経験, 第10回東葛肝疾患症例検討会抄録集, 2001 . (第10回東葛肝疾患症例検討会, 東京) (1)市病・内科
- 7 . 岸川 浩, 西田次郎, 中野 雅, 細江伸央, 小川信二⁽¹⁾, 田中陽一⁽²⁾ : 急性腹症として発症した虫垂を先端部とする成人腸重積の一例, 日腹部救急医学会誌 **22**(2), 408, 2002 . (第38回日本腹部救急医学会総会, 下関市) (1)市病・外科, (2)市病・臨検

8. 森下鉄夫⁽¹⁾，今井直彦⁽¹⁾，川田一郎⁽¹⁾，齋木厚人，細江伸央，岸川 浩，中野 雅，西田次郎，岩橋宏美⁽²⁾，石井裕正⁽³⁾：表層性胃炎の微小循環学的検討，第27回日本微小循環学会総会プログラム・抄録集，48，2002。(第27回日本微小循環学会総会，東京)(1)市病・内科，(2)静岡日赤・消化器科，(3)慶大・医・内科
9. 今井直彦⁽¹⁾，岸川 浩，細江伸央，中野 雅，小野田清香⁽¹⁾，西田次郎，森下鉄夫⁽¹⁾，田中陽一⁽²⁾，小出 紀⁽²⁾：急性腹症で発症した解離性大動脈瘤の1例，医薬の門 42，40，2002。(第13回千葉 Critical Care Medicine 研究会，千葉市)(1)市病・内科，(2)市病・臨検

6. 小児科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

助 教 授	田中 葉子	3 世代にわたる SIADH 様水利尿不全の 1 家系
講 師	杉田記代子	MEG による年齢依存性てんかん症候群の病態解析
講 師	室谷 浩二	性分化異常症における包括的遺伝子診療システムの開発
助 手	古庄 知己	
助 手	有馬ふじ代	

2. 成果の概要

1) 3 世代にわたる SIADH 様水利尿不全の 1 家系

われわれは、昨年度見出した 3 世代にわたり SIADH と同様な水利尿不全を示す 1 家系（発端者，母，母方祖母）を症例報告した。発端者，母，母方祖母において水負荷試験を行った結果，尿量 / 負荷水分量比が 10 - 33%（正常では $70 \pm 7.8\%$ ）と水利尿の著しい障害が見られた。本症の病因として，AVP 受容体遺伝子（AVPR 2）および水チャンネルアクアポリン 2（AQP 2）遺伝子の機能亢進型変異の可能性が考えられたが，患児，同胞 2 例，両親，母方祖母の AVPR 2 および AQP 2 遺伝子のコーディング領域に変異は認められなかった。現時点で本家系列の水利尿の病因は不明であるが，過去に家族性 SIADH 発症の報告がないことから，今後は，AVPR 2 遺伝子プロモーター領域の変異解析，AQP 2 の細胞質内の recycling vesicle への回収障害などについての検討を行い，分子生化学レベルでの病態解明を目指す予定である。

Pediatr Nephrol 16, 820 - 822, 2001.

2) MEG による年齢依存性てんかん症候群の病態解析

平成 13 年度は，臨床的にてんかん分類が困難でかつ脳波で全般性棘徐波複合が認められる小児てんかん 6 例について MEG を行った。うち 2 例につき，てんかん原性異常電流を捕らえる事ができ，てんかん診断上 MEG が有用である事が示唆された。特に 1 症例では，臨床所見から複雑部分発作と考えられ継続的治療の適応と考えられたが，MEG 所見で後頭葉楔部に dipole を認め，てんかん病巣が後頭葉に局在することが確認され，本症は臨床経過，EEG および脳磁図所見からてんかん症候群のうち，Panayiotopoulos ら（1997）が提唱する新しいタイプの後頭葉てんかんである早期発症型良性小児後頭葉てんかんと診断し治療を中止した。最近，本疾患が報告されるようになったが，未だ病態は解明されていない。本症例の MEG 所見からの病巣の局在確定は本症候群と従来の後頭葉てんかんととの相違を示唆するものであった。今後，症例を重ね詳細な検討をして行く予定である。

平成 13 年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ，p 5 - 6.

The Journal of Child Neurology, in press

3) 性分化異常症における包括的遺伝子診療システムの開発

性分化異常症の原因は多岐にわたるが，その遺伝的機序はほとんど解明されていない。われわれは，分子遺伝学的手法を用いて，性分化異常症の包括的診断システムを構築することを目指している。

今年度の主な成果は以下のとおりである。(A) 尿道下裂を有する男児 20 数例において，アンドロゲン受容体 (AR) 遺伝子の変異解析および CAG リピート多型解析を行った結果，AR 遺伝子の変異は全ての患者において見出されなかったが，CAG リピート長が 44 に延長している症例が 1 例見出された（正常男性での CAG リピート長は 12 - 32 である）。CAG リピートの延長が AR 遺伝子機能を低下させ，これにより，胎児期の男性ホルモン効果が不十分となるため不完全な男性化を来したと考えられる。(B) 9 番染色体短腕

(9 p) 末端の欠失を有する女兒 2 例の臨床分子遺伝学的解析を行い，本領域に想定される性決定遺伝子が未分化性腺の形成に関与することを示した．これまで，9 p 上の性決定遺伝子は精巢形成のみに関与すると考えられていたが，卵巢形成にも関与することをはじめて示した．

Clin Endocrinol **54**, 835 ~ 858, 2001 .

Mol Hum Reprod **7**, 409 ~ 413, 2001 .

Eur J Endocrinol **145**, 613 ~ 617, 2001 .

3 . 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演 題	学 会 名	開催地
杉田記代子	2002 . 3 . 1	小児てんかんにおける MEG 解析の意義	平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センター・ワークショップ	千葉市

論 文

- 1 . 吉田丈俊⁽¹⁾, 金兼弘和⁽¹⁾, 蒔田芳男⁽²⁾, 伊藤義也⁽²⁾, 永井敏郎⁽³⁾, 矢野公一⁽²⁾, 田中葉子, 西巻 滋⁽⁴⁾, 山川博子⁽⁵⁾, 寺本知史⁽⁶⁾, 玉井伸哉⁽⁵⁾, 百井 亨⁽⁷⁾, 大橋博文⁽⁸⁾, 西 美和⁽⁹⁾, 齋藤万里子⁽¹⁾, 宮脇利男⁽¹⁾: わが国における鎖骨頭蓋異形成症の臨床的・遺伝的検討, 日本小児会誌 **105**(4), 442 ~ 447, 2001 . 原著 (1)富山医薬大・小児科, (2)旭川医大・小児科, (3)獨協医大越谷病院・小児科, (4)横浜市大・医・小児科, (5)慶大・医・小児科, (6)富山市立中央病院・小児科, (7)日赤和歌山医療センター・小児科, (8)埼玉県立小児医療センター・遺伝科, (9)広島赤十字病院・小児科
- 2 . Muroya, K., Sasagawa, I.⁽¹⁾, Suzuki, Y.⁽¹⁾, Nakada, T.⁽¹⁾, Ishii, T.⁽²⁾, Ogata, T.⁽²⁾: Hypospadias and the androgen receptor gene : mutation screening and CAG repeat length analysis length analysis, Mol Hum Reprod **7**(5), 409 ~ 413, 2001 . 原著 (1)山形大・医・泌尿器科, (2)慶大・医・小児科
- 3 . Muroya, K., Hasegawa, T.⁽¹⁾, Ito, Y.⁽²⁾, Nagai, T.⁽³⁾, Isotani, H.⁽⁴⁾, Iwata, Y.⁽⁵⁾, Yamamoto, K.⁽¹⁾, Fujimoto, S.⁽⁶⁾, Sotofumi, S.⁽⁷⁾, Fukushima, Y.⁽⁸⁾, Hasegawa, Y.⁽⁹⁾, Ogata, T.⁽¹⁾: GATA3 abnormalities and the phenotypic spectrum of HDR syndrome, J Med Genet **38**(6), 374 ~ 380, 2001 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)旭川医大・小児科, (3)獨協医大越谷病院・小児科, (4)枚方市民病院・内科, (5)倉敷中央病院・内科, (6)名古屋市大・医・小児科, (7)能登中央病院・小児科, (8)信州大・医・衛生学, (9)都立清瀬小児病院・内分泌代謝科
- 4 . Ogata, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Ishii, T.⁽¹⁾, Suzuki, Y.⁽²⁾, Nakada, T.⁽²⁾, Sasagawa, I.⁽²⁾: Undermasculinized genitalia in a boy with an abnormally expanded CAG repeat length in the androgen receptor genelength in the androgen receptor gene, Clin Endocrinol **54**(6), 835 ~ 838, 2001 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)山形大・医・泌尿器科
- 5 . Tamai, S.⁽¹⁾, Tanaka, Y., Kizu, R.⁽¹⁾, Ishii, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Sato, S.⁽¹⁾, Nishimura, G.⁽²⁾, Matsuo, N.⁽¹⁾: Auxological and radiological manifestations of patients with hypochondroplasia negative for N540K mutation in fibroblast growth factor receptor 3 gene, Clin Pediatr Endocrinol **10**(1), 13 ~ 16, 2001 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)那須中央病院・放射線科
- 6 . Suzuki, Y.⁽¹⁾, Sasagawa, I.⁽¹⁾, Tateno, T.⁽¹⁾, Ashida, J.⁽¹⁾, Nakada, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Ogata, T.⁽²⁾: Mutation screening and CAG repeat length analysis of the androgen receptor gene in Klinefelter's syndrome patients with and without spermatogenesis, Hum Reprod **16**(8), 1653 ~ 1656, 2001 . 原著 (1)山形大・医・泌尿器科, (2)慶大・医・小児科
- 7 . Sasagawa, I.⁽¹⁾, Suzuki, Y.⁽¹⁾, Ashida, J.⁽¹⁾, Nakada, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Ogata, T.⁽²⁾: CAG repeat length analysis and mutation screening of the androgen receptor gene in Japanese men with idiopathic azoospermia, J Androl **22**(5), 804 ~ 808, 2001 . 原著 (1)山形大・医・泌尿器科, (2)慶大・医・小児科
- 8 . Tanaka, Y., Sugita, K., Saito, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Ishikawa, S.⁽¹⁾, Awazu, M.⁽²⁾, Ogata, T.⁽²⁾: Impaired urinary water excretion in a three-generation family, Pediatr Nephrol **16**(10), 820 ~ 822, 2001 . 原著 (1)自治医大・内分泌代謝, (2)慶大・医・小児科
- 9 . Suzuki, Y.⁽¹⁾, Sasagawa, I.⁽¹⁾, Ashida, J.⁽¹⁾, Nakada, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Ogata, T.⁽²⁾: Screening for mutations of the androgen receptor gene in patients with isolated cryptorchidism, Fertil Steril **76**(4), 834 ~ 836, 2001 . 原著 (1)山形大・医・泌尿器科, (2)慶大・医・小児科

- 10 . Ishii, T.⁽¹⁾, Sato, S.⁽¹⁾, Kenjiro, K.⁽¹⁾, Sasaki, G.⁽¹⁾, Muroya, K., Ogata, T.⁽¹⁾, Matsuo, N.⁽¹⁾ : Micropenis and the AR gene : Mutation and CAG repeat-length analysis, *J Clin Endocrinol Metab* **86**(11), 5372 ~ 5378, 2001 . 原著 (1)慶大・医・小児科
- 11 . Ogata, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Matsuo, N.⁽¹⁾, Shinohara, O.⁽²⁾, Yorifuji, T.⁽³⁾, Nishi, Y.⁽⁴⁾, Hasegawa, Y.⁽⁵⁾, Horikawa, R.⁽⁶⁾, Tachibana, K.⁽⁷⁾ : Turner syndrome and Xp deletions : clinical and molecular studies in 47 patients, *J Clin Endocrinol Metab* **86**(11), 5498 ~ 5508, 2001 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)東海大・医・小児科, (3)京大・医・小児科, (4)広島赤十字病院・小児科, (5)都立清瀬小児病院・内分泌代謝科, (6)国立小児病院・内分泌代謝科, (7)神奈川県立こども医療センター・内分泌代謝科
- 12 . Ogata, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Ohashi, H.⁽²⁾, Mochizuki, H.⁽³⁾, Hasegawa, T.⁽¹⁾, Kaji, M.⁽⁴⁾ : Female gonadal development in XX patients with distal 9 p monosomy, *Eur J Endocrinol* **145**(5), 613 ~ 617, 2001 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)埼玉県立小児医療センター・遺伝科, (3)埼玉県立小児医療センター・代謝内分泌科, (4)静岡県立こども病院・内分泌代謝科
- 13 . Nishimura, G.⁽¹⁾, Nishimura, H.⁽²⁾, Tanaka, Y., Makita, Y.⁽³⁾, Ikegawa, S.⁽⁴⁾, Ghadami, M.⁽⁵⁾, Kinoshita, A.⁽⁵⁾, Niiikawa, N.⁽⁵⁾ : Camurati-Engelmann disease type : progressive diaphyseal dysplasia with striations of the bones, *Am J Med Genet* **107**(1), 5 ~ 11, 2002 . 原著 (1)那須中央病院・放射線科, (2)石川小児整形センター・整形外科, (3)旭川医大・小児科, (4)医化学研究所・ヒトゲノムセンター, (5)長崎大・医・原研遺伝
- 14 . Koshu, T.⁽¹⁾, Uemura, T.⁽²⁾, Tanimura, M.⁽³⁾, Ohashi, H.⁽⁴⁾, Muroya, K., Ogata, T.⁽¹⁾ : Refined mapping of the gene for otopalatodigital syndrome type , *J Med Genet* **39**(2), E 7 , 2002 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)聖マリア病院・形成外科, (3)国立小児病院小児医療研究センター・小児生態研究部, (4)埼玉県立小児医療センター・遺伝科
- 15 . Muroya, K., Nishimura, G.⁽¹⁾, Douya, H.⁽²⁾, Hasegawa, T.⁽³⁾, Ogata, T.⁽⁴⁾ : Diaphyseal medullary stenosis with malignant fibrous histiocytoma : Further evidence for loss of heterozygosity involving 9p21 - 22 in tumor tissue, *Genes Chromosomes Cancer* **33**(3), 326 ~ 328, 2002 . 原著 (1)那須中央病院・放射線科, (2)国立ガンセンター病院・整形外科, (3)国立ガンセンター研究所・病理部, (4)慶大・医・小児科
- 16 . Ogata, T.⁽¹⁾, Muroya, K., Sasaki, G.⁽¹⁾, Nishimura, G.⁽²⁾, Kitoh, H.⁽³⁾, Hattori, T.⁽⁴⁾ : SHOX nullizygosity and haploinsufficiency in a Japanese family : implication for the development of Turner skeletal features, *J Clin Endocrinol Metab* **87**(3), 1390 ~ 1394, 2002 . 原著 (1)慶大・医・小児科, (2)那須中央病院・放射線科, (3)名大・医・整形外科, (4)愛知県 कोरोニー中央病院・整形外科

解 説

- 1 . 古庄知己 : Meckel-Gruber 症候群, *小児診療* **64**(増刊), 44, 2001 .
- 2 . 古庄知己 : Encephalocele, *日臨* **33**(別冊), 625 ~ 626, 2001 .
- 3 . 古庄知己 : Encephalocraniocutaneous lipomatosis, *日臨* **33**(別冊), 627 ~ 628, 2001 .
- 4 . 古庄知己 : Enchondromatosis(Ollier disease), *日臨* **33**(別冊), 631 ~ 632, 2001 .
- 5 . 古庄知己 : Enchondromatosis and hemangiomas(Maffucci syndrome), *日臨* **33**(別冊), 633 ~ 634, 2001 .

- 6 . 古庄知己 : Endocrine neoplasia, multiple type 1 , 日臨 33(別冊) , 635 ~ 636 , 2001 .
- 7 . 古庄知己 : Endocrine neoplasia, multiple type 2 , 日臨 33(別冊) , 637 ~ 639 , 2001 .
- 8 . 古庄知己 : Endosteal hyperostosis , 日臨 33(別冊) , 640 ~ 641 , 2001 .
- 9 . 古庄知己 : Epidermolysis bullosa, type , , , 日臨 33(別冊) , 642 ~ 643 , 2001 .
- 10 . 古庄知己 : Epiphyseal stippling syndrome , 日臨 33(別冊) , 646 , 2001 .
- 11 . 古庄知己 : Exostoses, multiple cartilaginous , 日臨 33(別冊) , 647 ~ 648 , 2001 .
- 12 . 古庄知己 : Exstrophy of cloaca sequence , 日臨 33(別冊) , 649 ~ 650 , 2001 .
- 13 . 古庄知己 : Eye, anterior segment dysgenesis , 日臨 33(別冊) , 651 ~ 652 , 2001 .
- 14 . 古庄知己 : Eye, Duane retraction syndrome , 日臨 33(別冊) , 653 ~ 654 , 2001 .
- 15 . 古庄知己 : Eye, hypertelorism , 日臨 33(別冊) , 655 , 2001 .
- 16 . 古庄知己 : Eye, keratoconus , 日臨 33(別冊) , 656 ~ 657 , 2001 .
- 17 . 古庄知己 : Eye, microphthalmia/coloboma , 日臨 33(別冊) , 658 ~ 659 , 2001 .
- 18 . 古庄知己 : F - syndrome , 日臨 33(別冊) , 660 , 2001 .
- 19 . 古庄知己 : Skeletal dysplasia , 3 - M type , 日臨 34(別冊) , 649 ~ 650 , 2001 .
- 20 . 古庄知己 : Skeletal dysplasia, Boomerang dysplasia , 日臨 34(別冊) , 651 ~ 652 , 2001 .
- 21 . 古庄知己 : Skeletal dysplasia, de la Chapelle type , 日臨 34(別冊) , 653 ~ 654 , 2001 .

単行図書

- 1 . 田中葉子 : 著分担 : 看護のための最新医学講座第 7 巻代謝疾患・内分泌疾患^(a)ポルフィリン代謝異常117 ~ 119頁 , ^(b)ヘモクロマトーシス120 ~ 121頁 , ^(c)マルファン症候群122 ~ 123頁 , ^(d)ウィルソン病124 ~ 125頁 , ^(e)亜鉛欠乏症候群126 ~ 127頁 , 中山書店 , 東京 , 2001 .

学会抄録

- 1 . 有馬ふじ代 , 中埜信太郎 , 杉田記代子 , 田中葉子 , 川村 研⁽¹⁾ : ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を呈しシクロスポリンが有効であった IgA 腎症の一例 , 日小児会誌 105(3) , 270 , 2001 . (第104回日本小児科学会学術集会 , 仙台市) (1)国立佐倉病院小児科

- 2 . Tanaka, Y., Sugita, K. : Marshall-Smith syndrome : case report of a three-year-old boy without respiratory complications, Proceedings of 31st International Symposium, GH and Growth Factors in Endocrinology and Metabolism , 2001 . (31st International Symposium, GH and Growth Factors in Endocrinology and Metabolism, Valletta, Malta)
- 3 . Sugita, K., Inoue, H.⁽¹⁾, Tanaka, Y. : A child of cerebellar arteriovenous malformation(AVM)who had complete recovery after surgical resection, Eur J Paediat Neurol 5(5), P78 ,2001 .(4th International Congress of the European Paediatric Neurology Society, Barden-Barden, Germany) (1)市病・脳外科
- 4 . Kosho, T., Muroya, K., Tanimura, M.⁽¹⁾, Uemura, T.⁽²⁾, Matsuo, M.⁽³⁾, Ohashi, H.⁽⁴⁾, Matsuo, N.⁽⁵⁾, Ogata, T.⁽⁶⁾ : Refinement of the locus for otopalatodigital syndrome type K (OPD - I), Eur J Hum Genet 9(Supple 1), 350 ~ 351 , 2001 . (10th International Congress of Human Genetics, Vienna, Austria) (1)国立小児病院小児医療研究センター・小児生態研究部, (2)佐賀医大・形成外科, (3)神奈川県立こども医療センター・遺伝科, (4)埼玉県立小児医療センター・遺伝科, (5)慶大・医・小児科
- 5 . 田中葉子, 加藤元一郎⁽¹⁾, 新宅治夫⁽²⁾, 武岡正方⁽³⁾, 高橋孝雄⁽³⁾, 松尾宣武⁽³⁾ : テトラヒドロピオプテリン欠損症における前頭葉機能と MRI による脳容量解析, 脳と発達 33(Suppl), 249 , 2001 . (第43回日本小児神経学会, 岡山市) (1)市病・精神・神経科, (2)大阪市大・医・小児科, (3)慶大・医・小児科
- 6 . Tanaka, Y., Sugita, K., Muroya, K., Saito, T.⁽¹⁾, Ishikawa, S.⁽¹⁾, Awazu, M.⁽²⁾, Ogata, T.⁽²⁾ : Impaired water excretion in a three - generation family : a new dominantly inherited condition mimicking SIADH, Pediatr Res 49(6) , P3 - 1015 , 2001 . (6th Joint Meeting of the Lawson Wilkins Pediatric Endocrine Society and the European Society for Paediatric Endocrinology, Montreal) (1)自治医大・内分泌代謝, (2)慶大・医・小児科
- 7 . 緒方 勤⁽¹⁾, 室谷浩二, 松尾宣武⁽¹⁾, 中込美子⁽²⁾, 花木啓一⁽³⁾, 吉澤敦子⁽⁴⁾, 横谷 進⁽⁴⁾, 五十嵐 裕⁽⁵⁾, 羽二生邦彦⁽⁶⁾, 長谷川行洋⁽⁷⁾, 安達昌功⁽⁸⁾, 立花克彦⁽⁸⁾ : 性染色体異常症における知能障害発症の遺伝的機序, 第35回日本小児内分泌学会プログラム・抄録集, 48 , 2001 . (第35回日本小児内分泌学会, 東京) (1)慶大・医・小児科, (2)山梨医大・小児科, (3)鳥取大・医・小児科, (4)虎の門病院・小児科, (5)宮城県五十嵐小児科, (6)愛知県羽二生クリニック, (7)清瀬小児病院・内分泌代謝科, (8)神奈川県立こども医療センター・内分泌代謝科
- 8 . 室谷浩二, 田中葉子, 長谷川奉延⁽¹⁾, 松尾宣武⁽¹⁾, 長谷川行洋⁽²⁾, 伊藤善也⁽³⁾, 永井敏郎⁽⁴⁾, 緒方 勤⁽¹⁾ : HDR 症候群 9 家系における GATA 3 遺伝子解析と臨床像の検討, 第35回日本小児内分泌学会プログラム・抄録集, 62 , 2001 . (第35回日本小児内分泌学会, 東京) (1)慶大・医・小児科, (2)都立清瀬小児病院・内分泌代謝科, (3)旭川医大・小児科, (4)獨協医大越谷病院・小児科
- 9 . 室谷浩二, 西村 玄⁽¹⁾, 銅冶英雄⁽²⁾, 長谷川 匡⁽³⁾, 緒方 勤⁽⁴⁾ : 遺伝性骨異形成 / 骨腫瘍症候群 DMS - MFH : 症例報告および発症機序の解明, 第46回日本人類遺伝学会プログラム・抄録集, B - 66 , 2001 . (第46回日本人類遺伝学会, さいたま市) (1)那須中央病院・放射線科, (2)千葉県こども病院・整形外科, (3)国立ガンセンター研究所・病理部, (4)慶大・医・小児科
- 10 . 古庄知己⁽¹⁾, 望月 弘⁽²⁾, 大橋博文⁽³⁾, 室谷浩二, 緒方 勤⁽¹⁾ : SHOX 遺伝子異常が同定されなかった Leri-Weill dyschondrosteosis の 1 家系, 第24回日本小児遺伝学会学術集会プログラム・抄録集, 14 , 2001 . (第24回日本小児遺伝学会学術集会, 宇部市) (1)慶大・医・小児科, (2)埼玉県立小児医療センター・代謝内分泌科, (3)埼玉県立小児医療センター・遺伝科

11. 室谷浩二, 田中葉子, 銅冶英雄⁽¹⁾, 長谷川 匡⁽²⁾, 西村 玄⁽³⁾, 緒方 勤⁽⁴⁾: 遺伝性骨異形成 / 骨腫瘍症候群 DMS - MFH の発症機序の解明, 第19回小児代謝性骨疾患研究会報告書, 29 ~ 31, 2001. (第19回小児代謝性骨疾患研究会, 東京) (1)千葉県こども病院・整形外科, (2)国立ガンセンター研究所・病理部, (3)那須中央病院・放射線科, (4)慶大・医・小児科
12. 杉田記代子, 田中葉子, 加藤 隆⁽¹⁾, 加藤元一郎⁽¹⁾, 杉田克生⁽²⁾: 年齢依存性てんかん症候群の脳磁計を用いた病態解析 特に, 発作間欠期突発性異常波の脳局在性に関する検討, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ・プログラムおよび抄録集, 5 ~ 6, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A00 - 0640 - 4 脳科学研 (1)市病・精神・神経科, (2)千葉大・教育・基礎医化学
13. 杉田記代子, 田中葉子, 加藤 隆⁽¹⁾, 加藤元一郎⁽¹⁾, 杉田克生⁽²⁾: 小児てんかんにおける MEG 解析の意義, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ・プログラムおよび抄録集, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) A00 - 0640 - 4 脳科学研 (1)市病・精神・神経科, (2)千葉大・教育・基礎医化学

7. 脳神経外科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

講師 井上 洋 三叉神経痛に対する外科的治療としての「神経血管減圧術」の確立 (A97 0760 1)

講師 島本 佳憲 より安全で確実な脳動脈瘤クリッピング術を施行するための取り組み
(A00 0760 1)

2. 成果の概要

1) 三叉神経痛に対する外科的治療としての「神経血管減圧術」の確立 (A97 0760 1)

前年度に引き続き臨床研究を行った。症例によっては責任血管の同定が困難であるが、術前の責任血管同定に際して、MRI 画像が有用であった。

2) より安全で確実な脳動脈瘤クリッピング術を施行するための取り組み (A00 0760 1)

脳動脈瘤手術においてドップラーを用いた親血管温存の確認を行っている。

主幹動脈においてはドップラーは有用であったが、深部の細い血管の場合は、血流温存の確認が困難な場合があり、今後の課題と考えられた。

単行図書

- 1 . 島本佳憲^(a) : 著分担 : 臨床外科看護各論(第 6 版)^(a)B . 脊椎の疾患398 ~ 410頁 , 医学書院 , 東京 , 2002 .

8. 整形外科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	高橋 正憲	骨形成促進の実験的研究 (A97 0660 1), 手の外科の臨床的研究
助教授	小柳 貴裕	脊椎・脊髄外科の内視鏡的手術に関する研究
講師	川久保 誠	膝関節外科・スポーツ外傷に関する生体工学的研究
助手	南雲 剛史	骨軟部腫瘍
	三笠 貴彦	整形外科一般
	菊池謙太郎	整形外科一般
研修医	福岡 昌利	整形外科一般

2. 成果の概要

1) 骨形成促進の実験的研究 (A01 0660 1, A97 0660 2)

平成8年度よりHRCの助成を受けて、学内に他の講座との共同研究を含め、上記の課題で学際的なプロジェクトチームを編成した。昨年度までの成果は日本整形外科学会、今春の東歯学会で発表した。現在、科研費の補助を受けて骨および軟骨の凍結をプログラムフリーズとガラス化法で検討しているが、骨の凍結保存では、DMSOを用いたプログラムフリーズではかなり良好に骨の Viability が温存されるが、ガラス化法では温存されなかった。一方軟骨の凍結保存では、ガラス化でも Viability が温存されたが、プログラムフリーズ法に比較してやや劣っていた。結果として、組織を Viability を温存して効率的に凍結保存するには、組織の性状に応じた凍結方法が存在するものと考えられる。これらの結果は第29回日本低温医学会に発表の予定である。

2) 損傷腱の修復に関する実験的研究

平成13年度より科研費基盤研究の助成を受けて超音波パルスまたは磁場が損傷腱の修復に及ぼす影響をラットを用いて実験を行っている。

3) Navigation system を用いた人工膝関節手術

臨床的研究として computer assist surgery の一環として、navigation system を導入して人工膝関節置換術を行っている。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
高橋 正憲	凍結保存骨膜の骨形成能に関する実験的研究	済生会向島病院	東京	浪花 豊寿
高橋 正憲	凍結保存骨膜の骨形成能に関する実験的研究	慶應大学整形外科学教室	東京	高尾 努

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
高橋 正憲	冷凍保存骨膜の骨形成能に関する実験的研究	科学研究費・基盤（C）
川久保 誠	磁場照射または超音波パルスの照射が損傷腱及び靭帯の修復に及ぼす影響について	科学研究費・基盤（C）

5. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者	年月日	学会・研究会	会場	主催地
高橋 正憲	2001.12.8 ~ 9	第11回日本全身咬合学会学術大会	OVTA 高度ポリテクセンター	千葉市

6. 教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者(著者)	年月日	演題	学会名	開催地
川久保 誠	2002.3.2	人工膝関節手術後に発生する下肢深部静脈血栓症 その診断と予防	埼玉県整形外科医会・整形外科勤務医部会（第9回）	さいたま市

論 文

1. 渡辺 理⁽¹⁾, 杉木 正⁽²⁾, 井口 理⁽²⁾, 高橋正憲: 末梢神経損傷が幼若ラットの後根神経節細胞に与える影響について, 日手の外科会誌 17(6), 698~701, 2001. 原著 (1)日野市立病院・整形外科, (2)慶大・医・整形外科
2. 前野晋一⁽¹⁾, 川久保 誠, 松本秀男⁽¹⁾, 戸山芳昭⁽¹⁾: 腿骨内側顆後面に生じた離断性骨軟骨炎と思われる1例, 関東整災外会誌 32(3), 132~137, 2001. 症例 (1)慶大・医・整形外科
3. 小柳貴裕, 穴澤卯圭, 川久保 誠, 川久保武生, 高橋正憲: 内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術(MED)の経験, 東日臨整外会誌 13(4), 466~469, 2001. 原著
4. 高橋正憲, 高尾 努, 臼田修二, 渡辺 理⁽¹⁾, 浦部忠久⁽²⁾: 2方向からの経皮ピンニングによる Bennett 脱臼骨折の治療経験, 日手の外科会誌 18(6), 905~909, 2002. 臨床 (1)日野市立病院・整形外科, (2)足利赤十字病院・整形外科

解 説

1. 高橋正憲, 高尾 努, 小野宏之: Bennett 脱臼骨折の最小侵襲による治療, 整災外 44(4), 1369~1374, 2001.

そ の 他

1. 小柳貴裕: 独立性の検定とその問題点, 臨整外 36(9), 1044~1047, 2001.
2. 小柳貴裕: 頸椎症性と思われた筋萎縮症, 脊椎脊髄ジャーナル 14(12), 1017~1019, 2001.
3. 小柳貴裕: 2群の平均値の差の検定(t検定), 臨整外 36(12), 1427~1431, 2001.
4. 小柳貴裕: 一標本、二標本のノンパラメトリック検定, 臨整外 37(3), 275~282, 2002.

学会抄録

1. 川久保 誠, 小柳貴裕, 高橋正憲: 人工膝関節置換術後に発生する深部静脈血栓症低分子ヘパリンの予防効果, 日整外会誌 75(2), S80, 2001. (第74回日本整形外科学会学術集会, 千葉市)
2. 小柳貴裕, 川久保 誠, 高橋正憲: 脊椎後方手術における深部静脈血栓症の診断と予防, 日整外会誌 75(3), S473~S473, 2001. (第74回日本整形外科学会学術集会, 千葉市)
3. 高尾 努, 高橋正憲, 小柳貴裕, 川久保 誠, 穴澤卯圭, 矢部寛樹, 浪花豊寿: 週齢の違いによるラット脛骨及び頭頂骨の骨膜の組織学的相違, 関東整災外会誌 32(臨増号外), 77, 2001. (第40回関東整形災害外科学会, 東京) 実動施設
4. Kawakubo, M., Koyanagi, T., Takahashi, M.: Endoscopic release of the tibialis posterior and soleus muscles for medial tibial stress syndrome, ISAKOS, 2001. (2001 International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine Congress, Montreux, Sitzerland)
5. 高尾 努, 高橋正憲, 小柳貴裕, 川久保 誠, 兼子 智⁽¹⁾, 浪花豊寿: 骨の各種凍結保存法による生存の可能性について, 歯科学報 101(6), 594, 2001. (第271回東京歯科大学学会, 千葉市) 実動施設 (1)市病・産婦人科

6. 高尾 努, 高橋正憲, 浪花豊寿, 兼子 智⁽¹⁾, 小柳貴裕, 川久保 誠: 関節軟骨及び骨端軟骨の凍結条件の違いによる Viability の検討, 日整外会誌 75(8), S933, 2001. (第16回日本整形外科基礎学術集会, 広島市) 実動施設(1)市病・産婦人科
7. 高橋正憲, 高尾 努, 臼田修二⁽¹⁾, 渡辺 理⁽¹⁾: Bennett 脱臼骨折治療の経皮ピンニングによる新しい試み, 日手の外科会誌 18(2), 230 ~ 231, 2001. (第44回日本手の外科学会, 大阪市) (1)慶大・医・整形外科
8. 古賀龍二, 川久保 誠, 小柳貴裕, 矢部寛樹, 高橋正憲: 治療に難渋した膝関節拘縮を伴った陳旧性大腿四頭筋腱断裂の 1 例, 膝, 88, 2002. (第27回日本膝関節学会, 別府市)
9. 高橋正憲, 原口孝之⁽¹⁾, 渡邊 裕⁽¹⁾: 手の巧緻運動(precision movement)の MEG による検討, 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 11, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 脳科学研 (1)市病・オーラルメディシン

9. 産婦人科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	田辺 清男	マウス卵核移植に関する基礎的研究 (A99 0670 1)
講師	兼子 智	体外受精・胚移植, 特に男性不妊 (A97 0670 1, A97 0670 2)
	郡山 智	体外受精・胚培養環境について (A97 0670 1)
助手	黒島 正子	胚の染色体異常について (A97 0670 1)
	赤星 晃一	体外受精・胚移植における排卵誘発 (A97 0670 1)
	佐久間雄一	マウス卵核移植に関する基礎的研究 (A99 0670 1)
	富永英一郎	マウス卵核移植に関する基礎的研究 (A99 0670 1)
	木戸 進	胚の染色体異常について (A97 0670 1)
	前田 太郎	体外受精・胚移植における排卵誘発 (A97 0670 1)

2. 成果の概要

1) ヒト精漿, 血漿中のプリン誘導体の一斉分析 (A97 0670 1)

ATP, ADP, AMP, adenosine, cAMP の一斉分析法の高感度化を図り, 従来法の約500倍の感度が得られた. さらに, adenine の同時測定を可能とした. 本法を用いて, 精漿中では adenosine が主たるプリン誘導体として検出されたが, 血漿中では ATP, ADP を主とし, 両者のプリン構成は大きく異なった. 洗浄した精子に ATP (10^{-5} M) を添加して, 培養すると対照に比して先体反応誘起率および誘起速度が向上することを見いだした. 種々のプリン誘導体を用いて, ATP と効果を比較すると, UTP が同一濃度で最も有効であった. ATP, UTP による先体反応誘起促進作用は, PKC 阻害剤であるカルフォスチン C, Ca^{2+} チャンネルブロッカーであるベラパミルにより消失した.

J Chromatogr **760**, 159 ~ 163, 2001.

2) 修正 TUNEL 法によるヒト精子核 DNA 損傷の組織化学的検出 (A97 0670 1)

ICSI 実施に際して, 穿刺に供する精子は単に顕微鏡下に pick up するのみであり, 具体的な評価, 選別基準は存在しない. 本研究は ICSI 適正化の一端として, 精子核 DNA 損傷観察法 (TUNEL 法を用いた DNA 断端の組織化学的検出法) の定量性向上を試みた. 精子は可溶化後, TdT 反応によりにビオチン-dUTP-FITC-アビジンをラベルし, さらに PI を用いて対比染色した. 精子頭部に緑色蛍光を認めるものを DNA 断片化陽性, PI による赤色蛍光のみを認めるものを陰性とした. 100 精液標本 (精子濃度 $55 \pm 40 \times 10^6 / \text{ml}$, 運動率 $28.4 \pm 19.1\%$) の TUNEL 陰性率を測定した結果, $74.4 \pm 12.6\%$ であった. 精子濃度, 運動率, 正常形態率の低下に伴い陰性率の低下傾向を認めしたが, これらのパラメータとの相関は低く, 一般精液所見から DNA 断片化精子比率を推定することは困難であった. 今後, ICSI 施行に先立ち個々の精子の DNA 断片化程度を観察し, 適応の可否を判定する必要があると考えられる.

聖マリアンナ医学雑誌 **29**, 541 ~ 549, 2001.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学 外 研 究 施 設		
		研究施設	所在地	責任者
兼子 智	内分泌攪乱物質等の生活環境中の化学物質による健康影響 日本人正常男性の生殖機能に関する総合研究	聖マリアンナ医大泌尿	川崎市	岩本 晃明
兼子 智	内分泌かく乱物質のヒト生殖機能への影響に関する総合的研究	聖マリアンナ医大泌尿	川崎市	岩本 晃明
兼子 智	HIV 陽性男性・HIV 陰性女性夫婦に対する体外受精・胚移植の臨床応用に関する研究	新潟大学医 産婦	新潟市	田中 憲一

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
兼子 智	精巣における精子形成，消去の動的バランスを考慮した増勢機能の新規計量モデルの構築	科学研究費・基盤（C）
田辺 清男	顆粒膜細胞内 FSH 刺激伝達機構に関する生化学	科学研究費・基盤（C）

5. 研究活動の特記すべき事項

学会招待講演

講演者	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
田辺 清男	2001.5.12	生殖医療における妊娠率の向上を目指して 人工授精	第53回日本産科婦人科学会 学術講演会	札幌市
田辺 清男	2001.9.22	不妊症のケアー	平成13年度日本産婦人科医 会千葉県支部・日本産科婦 人科学会千葉地方部会秋季 研修会	茂原市
田辺 清男	2001.12.1	「千葉県に於ける少子化対策をめぐる医療の周辺」不妊治療の立場より	第2回千葉県医師会医学会 学術大会	千葉市
田辺 清男	2002.1.20	卵胞発育の基礎と臨床	第5回茨城ART臨床懇話会	水戸市

学会・研究会主催

主催者	年月日	学会・研究会	会場	主催地
田辺 清男	2002.2.2	日本産科婦人科学会千葉地方部会平 成13年度冬期学術講演会	市川グランドホテル	市川市

6 . 教育講演等教育に関する業績 , 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
田辺 清男	2001 . 4 . 23	生殖医療の最近の進歩	市川市産婦人科医会研修会	市川市
田辺 清男	2001 .10 .10	ホルモン療法 Q & A	市川市産婦人科医会研修会	市川市
田辺 清男	2001 .12 . 8	外来におけるホルモン治療	山梨県産婦人科医会研修会	甲府市

論 文

- 1 . Tanabe, K., Susumu, N.⁽¹⁾, Hand, K.⁽²⁾, Nishii, K.⁽³⁾, Ishikawa, I.⁽³⁾, Nozawa, S.⁽¹⁾ : Prediction of the potentially fertile period by urinary hormone measurements using a new home-use monitor : comparison with laboratory hormone analyses, *Human Repro* **16**(8), 1619 ~ 1624, 2001 . 原著 (1)慶大・医・産婦, (2)Unipath Ltd, (3)Mitui Pharmaceuticals
- 2 . 田邊清男 : 生殖医療における妊娠率の向上を目指して人工授精, *日産婦会誌* **53**(9), 246 ~ 249, 2001 . 総説
- 3 . 兼子 智, 田邊清男 : 人工授精の応用, *産と婦* **68**(10), 1286 ~ 1292, 2001 . 総説
- 4 . Katayama, M.⁽¹⁾, Matsuda, Y.⁽¹⁾, Shimokawa, K.⁽¹⁾, Tanabe, S.⁽¹⁾, Kaneko, S., Hara, I.⁽²⁾, Sato, H.⁽²⁾ : Simultaneous determination of six adenylyl purines in human plasma by high-performance liquid chromatography with fluorescence derivatization, *J Chromatogr B* (760), 159 ~ 163, 2001 . 原著 (1)明薬大・薬, (2)東京都
- 5 . Katayama, M.⁽¹⁾, Matsuda, Y.⁽¹⁾, Sasaki, T.⁽¹⁾, Shimokawa, K.⁽¹⁾, Kaneko, S., Iwamoto, T.⁽²⁾ : Determination of bisphenol A and 10 alkylphenols in semen using SDS micelle capillary electrophoresis with β -cyclodextrin, *Biomed Chromatogr* **15**(7), 437 ~ 442, 2001 . 原著 (1)明薬大・薬, (2)聖マリアンナ医大・泌尿
- 6 . 西田智保⁽¹⁾, 兼子 智, 野澤資亜利⁽¹⁾, 岩本晃明⁽¹⁾ : 若年男性集団における精子 DNA 断片化の解析, *聖マリアンナ医大誌* **29**(5), 541 ~ 548, 2001 . 原著 (1)聖マリアンナ医大・泌尿
- 7 . Miyaji, K.⁽¹⁾, Kaneko, S., Ishikawa, H.⁽¹⁾, Aoyagi, T.⁽¹⁾, Hayakawa, K.⁽¹⁾, Hata, M.⁽¹⁾, Oohashi, M.⁽²⁾, Izawa, A.⁽³⁾, Mura, M.⁽⁴⁾ : Creatinine Kinase isoforms in the seminal plasma and the purified human sperm, *Arch Androl* **46**(2), 127 ~ 34, 2001 . 原著 (1)市病・泌尿科, (2)東京都, (3)神奈川県, (4)慶大・医・泌尿
- 8 . 田邊清男, 白石 悟⁽¹⁾, 強口芳明⁽¹⁾, 小西康博⁽²⁾, 福庭一人⁽¹⁾, 吉村泰典⁽³⁾, 中村幸雄⁽⁴⁾ : PCOS におけるインヒビンの役割, *産婦の世界* **53**(4), 403 ~ 413, 2001 . 総説 (1)栃木県, (2)神奈川県, (3)慶大・医・産婦, (4)杏林大・医・産婦
- 9 . 田邊清男 : 体重減少性無月経, *産と婦* **68**(増刊), 58 ~ 62, 2001 . 総説
- 10 . 田邊清男, 兼子 智, 郡山 智, 佐久間雄一, 黒島正子, 富永英一郎, 岡崎雅子 : AIH へのアプローチ, *産婦の実際* **50**(2), 205 ~ 213, 2002 . 臨床

単行図書

- 1 . 田邊清男^(a) : 著分担 : 新女性医学大系11リプロダクティブヘルス^(a)妊よう性とその調節低用量ピルのメリット・デメリット135 ~ 149頁, 中山書店, 東京, 2001 .
- 2 . 兼子 智^(a), 田邊清男^(a) : 著分担 : 体外受精 update ^(a)ラボの設計と配置 ; 総合病院におけるラボ81 ~ 85頁, メジカルビュー社, 東京, 2001 .

そ の 他

- 1 . 田邊清男, 木戸 進 : 中絶後の避妊指導, *Medicament News*(1704), 2001 .

2. 田邊清男：女性のからだは自分で守る時代へ「STD（性感染症）に対する正しい知識を」, 朝日新聞(西部本社), 2001.
3. 田邊清男：低用量 OC の処方の実際 各種アンケート調査からの報告 , いのち(生命), 2~6, 2002.

学会抄録

1. 田邊清男：生殖医療における妊娠率の向上を目指して人工授精, 日産婦会誌 **53**(2), 190(S-116), 2001.(第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 札幌市)
2. 馬場里奈⁽¹⁾, 古川真由⁽¹⁾, 合原 愛⁽¹⁾, 伊多波怜子⁽¹⁾, 竹下陽子⁽¹⁾, 岩崎美和⁽¹⁾, 藤平弘子⁽¹⁾, 蔵本千夏⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 宮越 敬, 富永英一郎, 黒島正子, 佐久間雄一, 赤星晃一, 兼子 智, 郡山 智, 田邊清男：妊婦の口腔所見と低体重児早産の関連, 歯科学報 **101**(6), 570, 2001.(第271回東京歯科大学学会, 千葉市)(1)市病・オーラルメディスン)
3. 兼子 智, 田邊清男：新規培養システムを用いるヒト胚の培養, 組織培養研究 **20**(2), 86, 2001.(日本組織培養学会第74回大会・第15回日本動物実験代替法学会合同学術大会, つくば市)
4. 兼子 智, 郡山 智, 赤星晃一, 黒島正子, 宮越 敬, 佐久間雄一, 富永英一郎, 田邊清男：胚, 精子凍結保存の共通プロトコール化(1), 第19回日本受精着床学会学術集会プログラム, 157, 2001.(第19回日本受精着床学会学術集会, 横浜市)
5. 中島潤子⁽¹⁾, 大庭三紀子⁽¹⁾, 小埜 清⁽¹⁾, 兼子 智, 田邊清男：胚, 精子凍結保存の共通プロトコール化(2)Cryo-sheetを用いるマウス胚のsemi-vitrification, 第19回日本受精着床学会学術集会プログラム, 157, 2001.(第19回日本受精着床学会学術集会, 横浜市)(1)茨城県)
6. 中島潤子⁽¹⁾, 大庭三紀子⁽¹⁾, 小埜 清⁽¹⁾, 兼子 智, 田邊清男：プログラムフリーザーを用いる胚緩速凍結法の高速度化, 日不妊会誌 **46**(4), 312, 2001.(第46回日本不妊学会総会・学術講演会, 東京)(1)茨城県)
7. 兼子 智, 郡山 智, 赤星晃一, 黒島正子, 佐久間雄一, 富永英一郎, 田邊清男：ヒト精子形態標準化像の確立, 日不妊会誌 **46**(4), 346, 2001.(第46回日本不妊学会総会・学術講演会, 東京)
8. Kaneko, S., Ishikawa, H.⁽¹⁾, Miyaji, K.⁽¹⁾, Iwamoto, T.⁽²⁾, Baba, K.⁽²⁾, Tanabe, K. : Preparation of amorphometric standard for human sperm, International Congress of Andrology program , 97, 2001.(7th International Congress of Andrology, Montreal, Canada)(1)市病・泌尿科, (2)聖マリアンナ医大・泌尿)
9. Nishida, T.⁽¹⁾, Kaneko, S., Yoshiike, M.⁽¹⁾, Nozawa, S.⁽¹⁾, Tanabe, K., Iwamoto, T.⁽¹⁾ : A new procedure for detecting DNA fragmentation in human spermatozoa using the TUNEL method, International Congress of Andrology program , 100, 2001.(7th International Congress of Andrology, Montreal, Canada)(1)聖マリアンナ医大・泌尿)

10. 眼 科 学 研 究 室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	坪田 一男	ドライアイ治療の基礎および臨床研究 (A99 0680 1)
助 教 授	島崎 潤	羊膜を用いた眼表面再建の奏功機序に関する検討
講 師	藤島 浩	環境因子のアレルギー性結膜炎への影響
	榛村 重人	角膜上皮細胞におけるラクトフェリンレセプターと酸化ストレス
	篠崎 尚史	眼組織からの幹細胞等の同定・単離・細胞株化およびこれらの保存方法に関する研究
助 手	田中 まり	眼アレルギー分野：重症アレルギー性角結膜炎の病態解明および治療法の確立
	松本 幸裕	ドライアイの血清点眼治療と温熱療法
病院助手	高野 洋之	重症アレルギーにおける好中球の役割
	許斐 健二	角膜内皮細胞の培養と幹細胞の同定, 単離, 保存
	川北 哲也	ファイブプロラスト (線維芽細胞) とサイトカイン
	中村 匡志	マイボーム腺
	鹿島みのり	
	御宮知達也	
	赤羽 直子	羊膜移植

2. 成果の概要

1) ドライアイ治療の基礎および臨床研究 (A99 0680 1)

血清再添加 0 時間を基準として遺伝子発現の増減を経時的に観察したところ, 一般的に intercellular mediator, transcription factor およびリン酸化酵素などは 0.5 時間後に, 細胞増殖, cytoskeleton, および molecular chaperone などは 6 時間後に増大ピークを示した. また発現が減少したものの大部分は 6 時間後にピークに達し, それ以上変動しないものが多かった. マイクロアレイ法が一般的手法化するに伴い, その結果の解析法が議論されてきている. 今後は, 類似の発現プロファイルを示すものが生理的に関連する遺伝子であると考える, クラスター解析を用いて本結果を解析し, 血清中有効成分の探索に生かす予定である.

血清除去による細胞死はカスパーゼカスケードが関与するアポトーシスであることが示された. この DNA の断片化およびカスパーゼ活性の上昇を基準として, 細胞死を抑制する血清中因子を探索した結果, EGF などの成長因子およびビタミン A が有効であることが示唆された. これらの成分は人工涙液の成分としても有用である可能性が考えられる. 今後は, 他の成長因子やタンパク質成分の影響, および因子の組み合わせ効果を検討し, さらに, カラムクロマトグラフィー法により, 血清中の未知の有効成分を探索中していく.

2) 羊膜を用いた眼表面再建の奏功機序に関する検討

羊膜の抗炎症作用を検討するために, 羊膜上に培養したヒト結膜上皮細胞の HLA - DR の発現を flow cytometry にて検討した. 通常的环境下では羊膜上に培養した結膜上皮と, dish 上に培養した結膜上皮の間で HLA - DR の発現に差はなかった. しかし, インターフェロン (IFN) - 30IU/ml にて 24 時間刺激した後の HLA - DR の発現量は, 羊膜上で培養した場合のほうが抑制されていた. さらに IFN - 300IU/ml で刺激した場合には HLA - DR の発現量に差は認められなかった. この結果より, 手術後などによる炎症が惹起された状態において, 羊膜はその上に再生してきた結膜上皮の抗原性を減少させる効果があることが示唆された. 臨床的に羊膜移植後には眼表面の炎症が抑制されることが認められており, 今回のスタディーはその機序を解明する上で有用であったと考えられた.

3) 環境因子のアレルギー性結膜炎への影響

環境因子のアレルギー性結膜炎への影響について培養結膜上皮細胞への各種環境因子の影響を DNAchip を用いて検討している。現在結膜上皮での DEP 6 時間作用群とコントロールでの比較で肥満細胞育成に必要な蛋白の mRNA 発現が見られたが、RSV, LPS 作用群間での比較し、その後肺上皮細胞, mastcell (国立小児・斎藤先生) での実験データをもらい、細胞間で比較検討する。角結膜上皮, 実質からの PGE 2 産生は角膜上皮を PGE 2 で刺激すると gene chip は IL - 7 しか上がらなかった。今後プロナックでの抑制実験も含めて検討する。アラキドン酸での好酸球の遊走について, CRTH 2 の発現については論文にまとめており, 現在 BWA868C による PDG 2 の遊走抑制および CTX と PTX による遊走について検討している。

4) 角膜上皮細胞におけるラクトフェリンレセプターと酸化ストレス

培養角膜上皮細胞に対する酸化ストレスと細胞死の関連を追求するため, 紫外線照射による細胞死の形態を調べた。低照射群では約 6 時間で細胞は培養ディッシュより剥がれ, カスペース 3 と 9 の活性が経時的に上昇した。一方, 強照射群では細胞脱落は見られず, カスペース 9 と 3 の活性の上昇は見られなかった。ミトコンドリア内膜の電位勾配と比例する Rhodamine123 の蛍光強度は, 両群において低下したが, 強照射群では不可逆的だった。今回の結果より, 紫外線は角膜上皮細胞において, ミトコンドリア障害を介してカスペース酵素群を活性化し, アポトーシスを起こすことがわかった。しかし, 一定の線量を超える紫外線では, 主にネクローシスが起きることが示唆された。

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
坪田 一男	ヒト羊膜を用いた再生表層角膜移植片における免疫学的研究	厚生科学研究費補助金
石川 達也	人工角膜の構築と免疫学的研究	文部科学省バイオベンチャー研究開発拠点整備事業
坪田 一男	涙液産生におけるアクアポリン 5 の生理的役割の解明	文部科学省科学研究費補助金
坪田 一男	ドライアイに係る疫学的研究	厚生科学研究費補助金
坪田 一男	ドライアイ発生機序の解明および治療用人工涙液の開発	厚生科学研究費補助金
篠崎 尚史	ヒト尿中落下細胞を用いた腎再生医療の研究	厚生科学研究費補助金
篠崎 尚史	眼組織からの幹細胞等の同定・単離・細胞株化およびこれらの保存法	眼組織からの幹細胞等の同定・単離・細胞株化およびこれらの保存法

4. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム企画

オーガナイザー	年月日	主題名	学会名	開催地
坪田 一男	2002. 1. 26	屈折矯正手術	第25回日本眼科手術学会	大阪府
坪田 一男	2002. 3. 1	再生角膜の作成及び移植に関する研究	平成13年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ	千葉市

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演 題	学 会 名	開催地
坪田 一男	2001 . 4 . 20	涙腺のすべて	日本眼科学会アーリーバードセミナー	横浜市
坪田 一男	2001 . 4 . 28	Laser treatment for presbyopia.	5 th Congress of Researchers in Eye Surgery and Technology	Florida, U. S. A.
坪田 一男	2001 . 7 . 3	再生医療の実際 角膜幹細胞移植	第22回日本炎症・再生医学会	東京
坪田 一男	2001 .10 .12 ~ 14	トラブル対策・術中トラブル (ビジュアルスタディー屈折矯正手術)	第55回日本臨床眼科学会	京都市
坪田 一男	2001 .10 .12 ~ 14	LASIK における手術倫理	第55回日本臨床眼科学会	京都市
坪田 一男	2001 .11 . 3	近視へのレーザー手術	第12回日本臨床スポーツ医学会学術集会	つくば市
坪田 一男	2001 .11 .27	シェーグレン症候群の新しい治療法	第16回日本臨床リウマチ学会総会	名古屋市
坪田 一男	2002 . 3 . 1	再生角膜プロジェクトのコンセプト	平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ	千葉市
坪田 一男	2002 . 3 . 8	Non LASIK refractive surgery.	第3回グラネアの会	新潟県南魚沼郡
藤島 浩	2002 . 3 . 21	アレルギー性眼疾患における肥満細胞の動態	第14回日本アレルギー学会春季臨床大会	千葉市
榛村 重人	2001 .12 . 5	角膜上皮細胞を用いた角膜の再生	日本人工臓器学会新科学技術・未来プロジェクト第4回研究会	東京
篠崎 尚史	2001 . 7	Transplantation in Japan.	The 6 th Congress of the International Society for Organ Sharing	名古屋市
篠崎 尚史	2001 .10 .12 ~ 14	Growth transplantation : Indications for surgery.	The 55th Congress of Clinical Ophthalmology of Japan	京都市

教育ワークショップ等

氏 名	年月日	ワークショップ名	役 割	開催地
島崎 潤	2002 . 3 . 1	平成13年度 東京歯科大学口腔科学研究センター ワークショップ	パネリスト	千葉市
榛村 重人	2002 . 3 . 1	平成13年度 東京歯科大学口腔科学研究センター ワークショップ	パネリスト	千葉市

学会招待講演

講演者	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
坪田 一男	2001 . 6 . 8	ごきげんだからうまくいく	日本麻酔・薬理学会第23回 学術大会	東京
坪田 一男	2001 .10 .29	Advances in the management of severe ocular surface disorders.	The 33 rd Congress of the Royal Australian College of Ophthalmology in Aus- tralia and New Zealand	Adelaide, Australia
坪田 一男	2002 . 1 .11	Blink rate,ocular surface area, meibomian secretion.	Eil et rtavail sur ecran in Lille	Lille, France
藤島 浩	2001 . 4 .19	眼アレルギーの診断と治療	第105回日本眼科学会総会 眼アレルギーフォーラム21	横浜市
篠崎 尚史	2001 .11	Hot topics in Japan.	Pan - American Association of Eye Banks	New Orleans, U. S. A.
篠崎 尚史	2001 .11	The present situation of Eye Banks in Japan .	Pan - American Associa- tion of Eye Banks	New Orleans, U. S. A.

5 . 教育講演等教育に関する業績 , 活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
坪田 一男	2001 . 4 . 20	レーシック	南青山アイクリニック横浜 レーシック説明会	横浜市
坪田 一男	2001 . 4 . 21	屈折矯正手術の進歩	日本眼科学会専門医制度第34 回講習会	横浜市
坪田 一男	2001 . 5 . 20	Corneal Surgery Update 2001.	第100回青森県眼科医会講演会	青森市
坪田 一男	2001 . 5 . 25	新時代の視力	南青山アイクリニック東京講 演会	東京
坪田 一男	2001 . 6 . 1	新時代の視力	南青山アイクリニック大阪講 演会	大阪市
坪田 一男	2001 . 6 .16	新時代の視力	南青山アイクリニック福岡講 演会	福岡市
坪田 一男	2001 . 6 .17	限界を打ち破る最新のテクノ ロジー	第3回 ISQOV Meeting	福岡市
坪田 一男	2001 . 6 . 24	涙点プラグのすべて	メディカルコア坪田一男1日 講習会	大阪市
坪田 一男	2001 . 6 . 27	ドクター坪田の100歳まで楽し く元気で生きる	日本ビジネス協会	東京
坪田 一男	2001 . 6 . 29	新時代の視力	南青山アイクリニック東京講 演会	東京
坪田 一男	2001 . 6 . 30	角膜上皮のステムセル移植	第8回皮膚創傷治療フォー ラム	東京

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
坪田 一男	2001 . 7 . 1	LASIK のすべて	メディカルコア坪田一男1日講習会	東京
坪田 一男	2001 . 7 . 7	Anti - Aging 医学入門	東京歯科大学市川総合病院第6回公開講演会	市川市
坪田 一男	2001 . 8 . 25	レーシックヴィスクジャパン	大阪レーシックセミナー	大阪市
坪田 一男	2001 . 8 . 26	LASIK のすべて	メディカルコア坪田一男1日講習会	大阪市
坪田 一男	2001 . 8 . 31	シェーグレン症候群のドライアイ治療 Up Date2001	膠原病治療セミナー	筑波市
坪田 一男	2001 . 9 . 9	アンチエイジングワールドへようこそ	第8回フナイ・オープン・ワールド	横浜市
坪田 一男	2001 . 9 . 16	LASIK とドライアイ	眼手術セミナー	和歌山
坪田 一男	2001 . 9 . 16	LASIK の実際とそれに必要な角膜組織の知識	眼手術セミナー	和歌山
坪田 一男	2001 . 9 . 21	レーシック	ヴィスクジャパン東京レーシックセミナー	東京
坪田 一男	2001 . 10 . 4	シェーグレン症候群のドライアイ治療 Up Date 2001	第1回神奈川県シェーグレン症候群研究会	横浜市
坪田 一男	2001 . 10 . 11	ドライアイの新しい考え方	第20回ドライアイ研究会	京都
坪田 一男	2001 . 10 . 19	100歳まで生きる anti - aging medicine	竹村健一未来経営研究会10月例会	東京
坪田 一男	2001 . 10 . 19	レーシック	ヴィスクジャパン福岡レーシックセミナー	福岡市
坪田 一男	2001 . 10 . 20	レーシック	ヴィスクジャパン大阪レーシックセミナー	大阪市
坪田 一男	2001 . 10 . 23	「ごきげん」を選択し100歳まで元気に楽しく生きる！	暦日会	東京
坪田 一男	2001 . 10 . 26	健康長寿医療について	炎症研究振興会第17回炎症・再生フォーラム	神奈川県足柄郡
坪田 一男	2001 . 11 . 2	Phakic - IOL.	第2回ニデックエキシマユーズミーティング	神奈川県足柄郡
坪田 一男	2001 . 11 . 6	打倒！眼の疲れーその原因はドライアイにあった	SONY 講演会	東京
坪田 一男	2001 . 11 . 11 ~ 12	Treating dry eye with new concepts.	American Academy of Ophthalmology, Instruction Course	New Orleans, U. S. A.
坪田 一男	2001 . 11 . 18	眼科最前線からの夢の若返り医療	2001年船井メディアヒューマン・カレッジ/後期	東京
坪田 一男	2001 . 11 . 27	Anti - Aging .	株式会社ニデック講演会	愛知
坪田 一男	2001 . 11 . 30	レーシック	ヴィスクジャパン東京レーザー近視矯正手術講演会	東京

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
坪田 一男	2002 . 2 . 8	シェーグレン症候群のドライアイ治療 Update2002	第1回千葉シェーグレン症候群フォーラム	千葉市
坪田 一男	2002 . 2 . 9	屈折矯正手術の将来	第43回日本眼科医会生涯教育講座「屈折矯正のすべて」	東京
坪田 一男	2002 . 2 .16	屈折矯正手術の将来	第43回日本眼科医会生涯教育講座「屈折矯正のすべて」	神戸市
坪田 一男	2002 . 3 . 9	屈折矯正手術の将来	第43回日本眼科医会生涯教育講座「屈折矯正のすべて」	福岡市
坪田 一男	2002 . 3 . 9	レーシック	ヴィスクジャパン福岡レーシックセミナー	福岡市
坪田 一男	2002 . 3 .20	アンタイエージング医学入門	心のふれあいボランティア「フレンズ」創立5周年記念のつどい	市川市
坪田 一男	2002 . 3 .20	近視のレーザー治療 LASIKの適応と合併症	千葉市医師会学術講演会	千葉市
坪田 一男	2002 . 3 .22	レーシック	ヴィスクジャパン東京レーシックセミナー	東京
坪田 一男	2002 . 3 .30	屈折矯正手術の将来	第43回日本眼科医会生涯教育講座「屈折矯正のすべて」	名古屋市
島崎 潤	2001 . 4 .21	LASIKの適応と限界	専門医制度委員会 第34回講習会『プライマリー・ケア・シリーズ30』	横浜市
島崎 潤	2001 . 7 . 7	オキュラーサーフェスの診断と治療	第189回鹿児島県眼科集談会	鹿児島市
島崎 潤	2001 . 7 .14	オキュラーサーフェス診断と治療	第46回東京女子医科大学眼科同窓会臨床談話会	東京
島崎 潤	2001 . 8 .26	オキュラーサーフェスの診断と治療：最近の進歩	第24回日本眼科医会東北ブロック講習会	仙台市
島崎 潤	2001 . 9 .29	オキュラーサーフェスアップデート	第7回秋田県眼科学術講演会	秋田市
島崎 潤	2001 .11 .17	角膜手術，最近の進歩	第2回長崎県眼科医会学術講演会	長崎市
島崎 潤	2001 .12 .22	眼表面再建術	第7回大阪手術シンポジウム	大阪市
島崎 潤	2002 . 2 . 4	屈折矯正手術の現状と課題	ひまわり会眼科講習会	福島市
島崎 潤	2002 . 2 .17	ドライアイの診断と治療	埼玉県眼科教育講演会	さいたま市
島崎 潤	2002 . 3 .16	角膜手術最近の進歩	北海道眼科医会生涯教育講座	札幌市
島崎 潤	2002 . 3 .30	ドライアイの診断と治療	世田谷区眼科医会眼科学術講習会	東京
藤島 浩	2001 . 4 .26	眼アレルギーの基礎	ノバルティス ファーマ株式会社講演会	伊勢原市
藤島 浩	2002 . 2 .16	アレルギーの克服に向けて	第8回アレルギー週間中央講演会	東京

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
篠崎 尚史	2001 . 7 28	効率的な病院ベースの提供システム構築	第3回アイバンクワークショップセミナー, (財)日本眼 球銀行協会	東京
篠崎 尚史	2001 . 7 28	採血実習	第3回アイバンクワークショップセミナー, (財)日本眼 球銀行協会	東京
篠崎 尚史	2001 . 7 29	角膜移植	平成13年度臓器移植セミナー, (社)日本臓器移植ネット ワーク	東京
篠崎 尚史	2001 . 8 25	21世紀のアイバンク	市川ライオンズクラブ	千葉市
篠崎 尚史	2001 . 9 .18	「生命」 臓器移植について 21世紀の「学びを創る」文部科 学省特色教育振興モデル事業	学校法人ノートルダム清心女 子高等学校	岡山市
篠崎 尚史	2001 .11 .17	角膜センター・アイバンクの歴 史とこれから	角膜移植患者の会	千葉市
篠崎 尚史	2001 .11 30	アイバンクサポーターの役割	ライオンズクラブ国際協会 330 - C 地区	さいたま市
篠崎 尚史	2001 .12 .17	献腎・献眼推進セミナー	ライオンズクラブ国際協会 330 - B 地区	山梨市

論 文

- 1 . Shimmura, S., Shimazaki, J., Ohashi, Y.⁽¹⁾, Tsubota, K. : Antiinflammatory effects of amniotic membrane transplantation in ocular surface disorders, *Cornea* **20**(4), 408 ~ 413, 2001 . 原著 (1)水病・眼科
- 2 . Tsubota, K., Shimmura, S., Shinozaki, N., Edward, J. H.⁽¹⁾, Shimazaki, J. : Clinical application of living-related conjunctival-limbal allograft, *Am J Ophthalmol.* **133**(1), 134 ~ 135, 2002 . 原著 (1)Cornea Services, Cincinnati Eye Institute
- 3 . Shimazaki, J., Shimmura, S., Tsubota, K. : Limbal stem cell transplantation for the treatment of subepithelial amyloidosis of the cornea(gelatinous drop-like dystrophy), *Cornea* **21**(2), 177 ~ 180, 2002 . 総説
- 4 . Fujishima, H. : Respiratory syncytial virus may be a pathogen in allergic conjunctivitis, *Cornea* **21**(2), S39 ~ S45, 2002 . 原著

解 説

- 1 . 宮田和典⁽¹⁾, 坪田一男 : 屈折矯正手術 PRK に適応はあるか, あたらしい眼科 **18**(1), 55 ~ 56, 2001 . 平成12年度分 (1)宮崎県
- 2 . 坪田一男 : ドライマウスとドライアイ, 歯界展望増刊号, 36 ~ 41, 2001 . 平成12年度分
- 3 . 島崎 潤 : 羊膜移植の基礎と臨床, 臨床眼科 **55**(5), 719 ~ 723, 2001 .
- 4 . 坪田一男 : Tear Film の安定性と涙液クリアランス, 日本の眼科 **72**(6), 643 ~ 646, 2001 .
- 5 . 島崎 潤 : 7.手術疼痛とその管理 / 1.直後痛のコントロール 1) 前眼部手術, 眼科診療プラクティス **4**(7), 106 ~ 107, 2001 .
- 6 . 藤島 浩 : 老眼, デンタルダイヤモンド **26**(11), 132 ~ 135, 2001 .
- 7 . 島崎 潤 : 眼科医療の現状と将来展望, デンタルダイヤモンド **26**(11), 142 ~ 148, 2001 .
- 8 . 藤島 浩, 坪田一男 : 老視の外科的治療, あたらしい眼科 **18**(10), 1259 ~ 1262, 2001 .
- 9 . 島崎 潤 : 瘢痕性角結膜症に対する眼表面再建法の検討, 歯科学報 **101**(10), 11 ~ 19, 2001 .
- 10 . 榛村重人, 坪田一男 : 眼科領域の Tissue Engineering, 遺伝子医学 **5**(4), 31 ~ 35, 2001 .
- 11 . 島崎 潤 : 羊膜移植 : 何がいいのか、何にいいのか, *Ophthalmic Surgeons* **1**(3), 72 ~ 76, 2002 .
- 12 . 島崎 潤 : 羊膜移植の臨床応用, 眼科手術 **15**(1), 25 ~ 29, 2002 .
- 13 . 榛村重人 : 羊膜を使った培養結膜上皮移植, 眼科手術 **15**(1), 43 ~ 47, 2002 .
- 14 . 藤島 浩 : アレルギー, 治療 **84**, 43 ~ 47, 2002 .

単行図書

1. 藤島 浩：著分担：アレルギーナビゲーター^(a)第3章アレルギー性眼疾患 1. アレルギー性結膜炎・春季カタル70～71頁，メディカルレビュー社，東京，2001.
2. 坪田一男：単著：ベストじゃなければ意味がない！，芳賀書店，東京，2001.
3. 坪田一男：単著：眼科医療最前線，双葉社，東京，2001.
4. 榛村重人：単著：ヒポクラテスの孤島，文芸社，東京，2001.
5. 田中まり^(a)，坪田一男^(a)：著分担：ドクターの目にやさしい歯科医療を求めて^(a)年代別に起こる目の正常な変化と異常疾患10～16頁，デンタルダイヤモンド社，東京，2001.
6. 中谷彰宏⁽¹⁾，坪田一男：共著：100歳まで元気でいけるために今できる43の方法，ダイヤモンド社，東京，2001. (1) 中谷彰宏事務所
7. 坪田一男：単著：100歳まで生きる！「不老！」の方法，宝島社，東京，2001.
8. Tsubota, K. ^(a), Tseng, S. C. ^{(1)(a)}, Nordlund, M. L. ^{(2)(a)}：著分担：Ocular surface disease-Medical and surgical management ^(a) Anatomy and physiology of the ocular surface 3～15頁，Springer, New York, U. S. A., 2001. (1) Bascom Palmer Eye Institute University of Miami School of Medicine, (2) University of Cincinnati & Cincinnati Eye Institute
9. Schwartz, G. S. ^{(1)(a)}, Tsubota, K. ^(a), Tseng, S. C. ^{(2)(a)}, Mannis, M. J. ^{(3)(a)}, Holland, E. J. ^{(4)(a)}：著分担：Ocular surface disease-Medical and surgical management ^(a) Keratolimbal allograft 208～222頁，Springer, New York, U.S.A., 2001. (1) University of Minnesota, (2) Bascom Palmer Eye Institute University of Miami School of Medicine, (3) University of California, Davis, (4) University of Cincinnati
10. Tseng, S. C. ^{(1)(a)}, Tsubota, K. ^(a)：著分担：Ocular surface disease-Medical and surgical management ^(a) Amniotic membrane transplantation for ocular surface reconstruction 226～231頁，Springer, New York, U. S.A., 2001. (1) Bascom Palmer Eye Institute University of Miami School of Medicine
11. 川北哲也^(a)，坪田一男^(a)：著分担：治療^(a)高齢者の眼疾患の診かた57～61頁，南山堂，東京，2001.
12. 坪田一男^(a)，^(b)編集：著分担：知っておきたい眼の病気とケア眼科ケア2001年秋季増刊号^(a)巻頭言 新しい Anti - Aging の時代がやてきた9～12頁，^(b)コラム 今すぐできるアンタイエージング10のプロジェクト223～232頁，メディカ出版，大阪市，2001.
13. 坪田一男^(a)：著分担：アトピー疾患用語ハンドブック^(a)アレルギー性結膜炎とドライアイ46頁，メディカルレビュー社，東京，2001.
14. 藤島 浩^(a)，^(b)：著分担：アトピー疾患用語ハンドブック^(a)エイコサペンタエン酸 眼科56頁，^(b)結膜乳頭切除術83頁，メディカルレビュー社，東京，2001.

15. 坪田一男^(a), 島崎 潤^(a), 榛村重人^(a): 著分担: 角膜移植ガイドンス適応から術後管理まで^(a)角膜上皮ステムセル41~45頁, 南江堂, 東京, 2002.
16. 藤島 浩^(a): 著分担: 角膜移植ガイドンス - 適応から術後管理まで^(a)角膜移植の術後管理 D 屈折の管理 2 抜糸88~91頁, 南江堂, 東京, 2002.
17. 坪田一男^(a), ^(b), 島崎 潤^(a), ^(b), 榛村重人^(a), ^(b): 著分担: 角膜移植ガイドンス - 適応から術後管理まで ^(a)角膜移植の実際 A 全層角膜移植26~29頁, ^(b)角膜移植の術後管理 D 屈折の管理 5 白内障手術99~101頁, 南江堂, 東京, 2002.
18. 坪田一男編集: 著分担: 治療プライマリケアでおさえおきたい高齢化社会における目のケア, 南山堂, 東京, 2002.

そ の 他

1. 島崎 潤: 難治性オキュラーサーフェスの検査法, 眼科診療 Q&A 29, 79ノ4~79ノ5, 2001.
2. 榛村重人: 深層表層角膜移植, Ocular Surgery News Jpn 1(9), 7~8, 2001.
3. 榛村重人: 新しいDLKP., あたらしい眼科 18(12), 1503~1504, 2001.
4. 榛村重人, 坪田一男: 角膜の再生医療, Human Science 13(1), 20~23, 2002.
5. 島崎 潤: 角膜移植後にLASIKができるのですか?, あたらしい眼科 18(臨時増刊号), 135~137, 2002.
6. 榛村重人: 基礎疾患の診断の重要性, Practical Ophthalmology 79, 77, 2002.

学会抄録

1. Shimazaki, J., Enomoto, M., Goto, E., Shimmura, S., Tsubota, K.: Cultivation of human epithelium on amniotic membrane; histological study and preliminary clinical results, Investigative Ophthalmology & Visual Science 42(4), S271, 2001. (Annual meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, Florida, USA)
2. Tsubota, K., Hirai, S.⁽¹⁾, King, L. S.⁽²⁾, Agre, P.⁽²⁾, Ishida, N.⁽¹⁾: Defective cellular trafficking of aquaporin - 5 water channel protein in Sjogren's syndrome lacrimal glands, ARVO 42(4), S713, 2001. (The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Annual Meeting, Florida, U.S.A., Florida, USA) (1)参天製薬(株), (2)Division of Pulmonary and Critical Care Medicine, Department of Biological Chemistry
3. Shimmura, S., Tadano, K., Shimazaki, J., Tsubota, K.: UV-dose dependent cell death expression in corneal epithelial cells, ARVO, 196, 2001. (The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, Florida, USA)
4. Fujishima, H., Yamamoto, Y., Okada, N., Tsubota, K., Fukagawa, K.: Prostaglandin(PG)E2 production from conjunctiva may contribute to allergic inflammation, ARVO, 200, 2001. (The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, Florida, USA)

- 5 . Tsubota, K. : Treatment of severe ocular surface disorders with corneal epithelial stem cell transplantation, IOSS, 2001 . (4th KPro - 6th International Ocular Surface Society Joint Meeting 2001, Florida, USA)
- 6 . 榛村重人, 只野貴示枝, 樋口明弘, 島崎 潤, 坪田一男 : 紫外線による角膜上皮細胞死とカスパー活性, 第67回中部眼科学会・第12回眼科フリーラジカル過酸化脂質研究会プログラム, 100, 2001 . (第12回眼科フリーラジカル過酸化脂質研究会, 金沢市)
- 7 . Tsubota, K., Hirai, S.⁽¹⁾, King, L. S.⁽²⁾, Agre, P.⁽²⁾, Isida, N.⁽¹⁾ : Defective cellular trafficking of aquaporin - 5 water channel protein in Sjogren's syndrome lacrimal glands, International Ocular Surface Society, 10, 2001 . (7th International Ocular Surface Society Regional Meeting October 2001, Kyoto, Japan) (1)参天製薬(株), (2)Division of Pulmonary and Critical Care Medicine, Department of Biological Chemistry
- 8 . 島崎 潤, 榛村重人, 藤島 浩, 坪田一男 : 角結膜化学傷・熱湯に対する眼表面再建術式の選択, 第55回日本臨床眼科学会抄録集, 83, 2001 . (第55回日本臨床眼科学会, 京都市)
- 9 . 榛村重人, 大橋由枝⁽¹⁾, 城間弘喜, 島崎 潤, 坪田一男 : 重症角結膜上皮疾患に対する深層表層角膜移植 (DLKP), 第55回日本臨床眼科学会抄録集, 84, 2001 . (第55回日本臨床眼科学会, 京都市) (1)水病・眼科
- 10 . Shimazaki, J., Kosaka, K.⁽¹⁾, Shimmura, S., Tsubota, K. : Long-term results of amniotic membrane transplantation with conjunctival autografting for recurrent pterygium, American Academy of Ophthalmology-final program, 128, 2001 . (105th Annual Meeting of the American Academy of Ophthalmology, New Orleans, LA, USA) (1)慶大・医・眼科
- 11 . Shimazaki, J., Shimmura, S., Fujishima, H., Tsubota, K. : Factors influencing outcome of ocular surface reconstruction in chemical or thermal burns, American Academy of Ophthalmology-final program, 138, 2001 . (105th Annual Meeting of the American Academy of Ophthalmology, New Orleans, LA, USA)
- 12 . 島崎 潤 : スティーブンスジョンソン症候群・眼類天疱瘡に対する眼表面再建術, 眼科手術 15(臨時増刊号), 137, 2002 . (第25回日本眼科手術学会総会, 広島市)
- 13 . 藤島 浩, 岡田直子, 五十嵐安弥子, 赤川絵美, 高野洋之, 田中まり, 川北哲也, 鹿島みのり, 加藤直子, 深川和己, 中島敏治⁽¹⁾, 斉藤博久⁽¹⁾ : 培養結膜上皮細胞に対するディーゼル因子の影響, 第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会抄録集, 76, 2002 . (第26回角膜カンファランス, 横浜市) (1)国立小児病院小児科医療研究センター
- 14 . 榛村重人, 石岡みさき⁽¹⁾, 安藤雅子, 島崎 潤, 坪田一男 : 円錐角膜におけるドナー角膜サイズ調整の屈折矯正効果, 第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会抄録集, 100, 2002 . (第26回角膜カンファランス, 横浜市) (1)東京都

11. 耳鼻咽喉科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 助 教 授 中島 庸也 慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98 0690 1)
- 助 手 松脇 由典 慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98 0690 1)
- 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について (A99 0690 1)
- 聴覚に対する MEG および EEG 応答 (A00 0690 1)
- 浅香 大也 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について (A99 0690 1)

2. 成果の概要

1) 慢性副鼻腔炎の病態と治療について (A98 0690 1)

真菌による慢性副鼻腔炎(副鼻腔真菌症)が近年増加傾向にある。副鼻腔真菌症はその感染型や進展速度により1)急性浸潤型副鼻腔真菌症,2)亜急性浸潤型副鼻腔真菌症,3)慢性副鼻腔真菌症,4)アレルギー性副鼻腔真菌症(Allergic Fungal Sinusitis,以下AFSと略す)に分類できる。このうちAFSは1983年にKatzensteinらにより新しいタイプの真菌症として報告されて以来,欧米を中心に近年注目を浴びている。AFSは従来の感染型の副鼻腔炎とは異なり,真菌に対するI型アレルギーを病態とするといわれている。一般的に難治性の慢性副鼻腔炎であり,手術後も再発例は多く,ステロイド依存性に鼻ポリープは縮小する傾向にある。Codyらによれば,手術に至った慢性副鼻腔炎患者の内,6~7%がAFSであったとの報告もある。欧米でのAFSの有病率は,手術に至った慢性副鼻腔炎症例の4~7%程度であると報告されているが,現在までのところ日本においては我々の報告した症例^{3,4)}も含め7例報告されているのみであり,現時点では非常にまれな疾患であると言える。我々が以前prospective studyにて検討⁵⁾した結果,手術に至った慢性副鼻腔炎症例102例中AFSと考えられた症例は4例(3.9%)であった。その検討の結果と典型的な症例を提示し,AFSという病態を紹介した。

2) 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療について (A99 0690 1)

睡眠時無呼吸症候群にたいし,ポリソムノグラフィーを施行し,その病態(中枢性,閉塞性,混合性)とその重症度別に分別した。これらに対しPMA(スリーププリント),手術療法,nasal-CPAPの治療を施行し効果判定を行った。AHIが30以下の症例においてはPMA単独での治療が可能であるが,閉塞部位診断が重要であり,適応を間違えると増悪することがある。当院で行っている治療法をPMAの適応も含め報告した。

3) 聴覚に対するMEGおよびEEG応答 (A00 0690 1)

聴覚刺激に対する聴皮質の機能評価のためにmagnetoencephalography(MEG)による検討を行った。サルの一次聴覚野には純音刺激に対する音階局在性が確認されている。ヒトの聴覚野における純音の周波数処理については,音刺激の提示条件やその検査法によって統一的な結果が得られず,サルの単一神経活動記録で確認される結果とヒトの脳機能画像所見の間には依然大きな隔たりが存在する。この研究の目的はMEGを用い,ヒト一次聴覚野における音階局在性を観察した。P50,N100の等価電流双極子は横側頭回に局在し,刺激耳と反体側の大脳半球の反応が大きく,潜時も短かった。双極子源の位置として,P50はN100よりわずかに前上方の横側頭回に求められ,各潜時の音階局在性はそれぞれが渦状を呈し,P50とN100とではその空間的配列は逆転された形で観測された。サルの単一神経活動記録で確認される結果に近似していると考えられた。

論 文

1. 中島庸也, 実吉健策, 松脇由典, 久納 浄: 当院における急性中耳炎の現況, 日耳鼻感染症研究会誌 **19**, 39~43, 2001. 臨床
2. 中島庸也: MRSA 感染症と抗菌薬の使い方 MRSA 感染症の抗菌薬療法の実際~抗 MRSA 薬の使い方, 感染と抗菌薬 **4**(1), 54~58, 2001. 総説
3. 中島庸也, 外木守雄⁽¹⁾: 出もの・腫れもの - 患者への説明と対応歯肉, 口腔底, 顎骨の出もの・腫れもの, JOHNS **17**(11), 1614~1618, 2001. 臨床 (1)市病・オーラルメディシン
4. 中川雅文⁽¹⁾, 中原凱文⁽²⁾, 青木喜九雄⁽²⁾, 松脇由典: 両耳異聴による聴性誘発反応ときき耳の他覚的評価, 耳鼻展望 **44**, 139~148, 2001. 原著 (1)順天大・医・耳鼻咽喉科, (2)東京工大・工
5. 飯村慈朗⁽¹⁾, 松脇由典, 柳 清⁽¹⁾, 鈴木高祐⁽¹⁾, 宇田川友克⁽¹⁾, 今井 透⁽¹⁾: Allergic fungal sinusitis の1症例, 耳鼻展望 **44**, 364~368, 2001. 原著 (1)聖路加病院・耳鼻咽喉科
6. 松脇由典, 中島庸也, 飯田 誠⁽¹⁾, 野原 修⁽¹⁾, 春名眞一⁽¹⁾, 森山 寛⁽¹⁾: Allergic fungal sinusitis 症例, 日耳鼻会報 **104**, 1147~1150, 2001. 原著 (1)慈恵医大・耳鼻咽喉科
7. 松脇由典, 浅香大也, 久納 浄, 中島庸也: アレルギー性副鼻腔真菌症の1症例, 第6回千葉真菌研究会・学術講演会記録集, 6~9, 2002. 症例

単行図書

1. 中島庸也^(a): 著分担: CLIAANT21: 20^(a)口腔咽頭疾患、口内炎394~399頁, 中山書店, 東京, 2001.

学会抄録

1. 松脇由典, 浅香大也, 久納 浄, 中島庸也, 新谷益朗⁽¹⁾: ヒト聴覚誘発 MEG および嗅覚誘発 MEG の検討, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集 **19**, 39~43, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉) 脳科学研 (1)脳科学研究施設

12. 皮膚科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 助 教 授 高橋 慎一 金属アレルギーの in - vitro test の開発 リンパ球幼若化試験 (A96 0710 2)
 助 手 川島 淳子 非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症表皮における transglutaminase 活性と cornified envelope の形成 (A00 0710 2)

2. 成果の概要

1) 金属アレルギーの in - vitro test の開発 リンパ球幼若化試験 (A96 0710 2)

金属アレルギー患者211名と正常人ポランテア108名にニッケル, パラジウム, 金, コバルト, クロム, 水銀の市販のパッチテスト試薬を用いたリンパ球幼若化試験 (LTT) と CAST を施行し, パッチテストの結果と比較検討した. ニッケル, パラジウム, 金, コバルトの LTT については各金属について, それぞれ至適濃度を設定すると, 感度は50~70%程度と低いが, 金属アレルギー検査法の一つとして有用であることが判明した. クロム, 水銀の LTT についてはアレルギー患者と正常人で差異が認められず, 有用でないと考えられた.

日皮アレルギー会誌 9(2), 152, 2001.

2) 非水疱型魚鱗癬様紅皮症表皮における transglutaminase 活性と cornified cell envelope の形成 (A00 0710 2)

常染色体劣性魚鱗癬は葉状魚鱗癬と非水疱型魚鱗癬様紅皮症 (NBCIE) に大別される. 葉状魚鱗癬は全例ではないが Transglutaminase (TGase) 1 の活性の異常と遺伝子変異が原因として報告されているが, NBCIE ではその原因は不明である. 5 例の NBCIE について, 病変部表皮内の TGase 1 の発現と *in situ* TGase 活性を調べた. 全例で TGase 1 の発現と *in situ* TGase 活性は正常. さらに lorocrin, involucrin の分布を検討した. 1 例で lorocrin の染色性の低下が見られた以外, lorocrin, involucrin の分布にも明らかな異常は見出せなかった. 今回の結果からは, TGase 1 の異常は, 病因として否定された. さらに追加実験として Transglutaminase に 1, 2, 3 の subtype があり, *in situ* TGase 活性はこの全てを反映するため, PH を調整し Calpain 処理することにより TGase 1, TGase 1 と 3 の酵素活性をわけて, 表皮内の局在を検討する.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学 外 研 究 施 設		
		研究施設	所在地	責任者
川島 淳子 高橋 慎一	非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症表皮におけるtransglutaminase活性とcornified cell envelope の形成	帝京大学医学部附属市原病院	市原市	松尾 隼朗

4 . 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究 課 題	研究 費
高橋 慎一	歯科用金属アレルギー診断と金属除去効果判定における LTT 法と CAST 法の検討	科学研究費・基盤 (C)

論 文

1. Kato, N.⁽¹⁾, Fukagawa, K.⁽¹⁾, Tsubota, K.⁽¹⁾, Urayama, K.⁽¹⁾, Takahashi, S., Fujishima, H.⁽¹⁾: Quantitative evaluation of atopic blepharitis by scoring of eyelid conditions and measuring the water content of the skin and evaporation from the eyelid surface, *Cornea* **20**(3), 255 ~ 259, 2001. 原著 (1)市病・眼科

単行図書

1. 高橋慎一^(a): 著分担: 皮膚科研修医ノート^(a)イギリスの場合192 ~ 195頁, 診断と治療社, 東京, 2001.

プロシーディングス

1. 高橋慎一, 川島淳子, 小柳貴裕⁽¹⁾: 扁桃で改善した脊椎炎を伴った掌蹠膿疱症の2例, 第16回日本乾癬学会記録集, 93 ~ 94, 2001. (第16回日本乾癬学会学術大会, 千葉市) A96 - 0710 - 1 (1)市病・整形外科

そ の 他

1. 高橋慎一: アレルギー相談室 Q&A: 金属インジウムのアレルギーがあると聞きました。どんな症状になりますか?, *アレルギーの臨* **21**(5), 407, 2001.
2. 高橋慎一: 歯科用金属アレルギー診断と金属除去判定における LTT 法と CAST 法の検討, 平成12年度 ~ 平成13年度科学研究費補助金 (基盤研究^(c)(2)) 研究成果報告書, 2002. A96 - 0710 - 2

学会抄録

1. 高橋慎一, 川島淳子, 森本光明⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾: 掌蹠膿疱症患者の歯性病巣感染とその治療, *日皮会誌* **111**(3), 426, 2001. (第100回日本皮膚科学会総会, 東京) A96 - 0710 - 1 (1)市病・オーラルメディスン
2. 高橋慎一, 森本光明⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾: 歯科用金属に含有したニッケルによる接触性粘膜炎の2症例 リンパ球幼若化試験の有用性, *日皮アレルギー会誌* **9**(2), 152, 2001. (第31回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会, 浜松市) A96 - 0710 - 2 (1)市病・オーラルメディスン
3. 岡村泰斗⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 高橋慎一: 感作動物を用いた口腔粘膜における遅延型過敏反応に関する実験的研究, *歯科学報* **101**(6), 576, 2001. (第271回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 実動施設 (1)市病・オーラルメディスン
4. 高橋慎一, 川島淳子, 野本佳子⁽¹⁾, 福谷英成⁽¹⁾: ライター病の1例, *日皮会誌* **111**(7), 1121, 2001. (第64回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京) (1)市病・内科
5. 森本光明⁽¹⁾, 岡村泰斗⁽¹⁾, 奥原康行⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 福島大平⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一⁽²⁾, 高橋慎一: 口腔粘膜に症状を有する尋常性天疱瘡の診断 抗デスマグレイン抗体価測定の臨床的意義, 第11回日本口腔粘膜学会・学術大会プログラム・抄録集, 2001. (第11回日本口腔粘膜学会・学術大会, 広島市) (1)市病・オーラルメディスン, (2)市病・臨検

13. 泌尿器科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	畠 亮	ラット腎同種移植における免疫寛容導入とアポトーシスの関与 (A 94 0730 1)
助教授	石川 博通	男性不妊における凍結保存精液の応用 (A 94 0730 2)
講師	早川 邦弘	免疫抑制少量投与によるドナー特異的免疫抑制法の開発 (A 94 0730 4)
	青柳貞一郎	ラットのカドミウムによる腎障害におけるアポトーシスの関与 (A 97 0730 1)
助手	宮地 系典	精子中の CPK 活性と CPK アイソザイム (A 99 0730 1)

2. 成果の概要

1) ラット腎同種移植における免疫寛容導入とアポトーシスの関与 (A 94 0730 1)

マイクロサージャリー下に WKAH ラットラットからルイスラットへ同時腎移植を行い、FK506により生着の延長が見られたことは既に報告した。ドナー特異的クローンの増殖のために、ドナーの全血液を移植前にレシピエントに輸注し、いわゆる DST を行うことで FK506 の使用量を減らすことができるかを検討したところ、移植 7 日前に DST を行うことで生着率の増加をみた。DST 施行群ではアポトーシスは緩徐ながら持続し、間質への細胞浸潤も増強せず軽度にとどまる傾向を示した。

2) 男性不妊における凍結保存精液の応用 (A 94 0730 2)

配偶者間人工授精の目的で精子凍結保存を行った 29 例を分析してその有用性を検討した。29 例のうち不妊症例が 11 例で、癌化学療法例が 18 例であった。不妊症例の年齢は 27 歳から 46 歳、平均 36.5 歳であった。不妊期間は最短 1 年から最長 17 年、平均 4.9 年であった。凍結保存の理由は逆行性射精が 8 例、精液所見不良が 3 例であった。凍結回数は 1 回から 32 回、平均 11.1 回であった。このうち 6 例に対して IUI、IVF による授精法を行い 1 例に妊娠が成立した。

癌化学療法例の年齢は 19 歳から 45 歳、平均 27.9 歳であった。配偶者のあるものは 4 例であったが、凍結保存後 2 例が結婚した。原疾患は精巣腫瘍 8 例、白血病 5 例、悪性リンパ腫 2 例、骨髄異形成症候群 2 例、膀胱腫瘍 1 例であった。凍結回数は 1 回から 4 回、平均 2.9 回であった。2 年間で授精の実施にいたったものは 1 例もなかった。

不妊症例では凍結不適例が多く、また融解後の精液所見が良好であった症例においても IVF、IUI を数周期行った症例では妊娠が成立しなかったことから、凍結精子を用いる授精の実施方法などに関しても十分考慮する必要があると考えられた。また癌化学療法例における精子凍結保存は児を得るための唯一の方法であり極めて有用性は高いが、実施にあたって原疾患の主治医及び患者と関係を緊密にすることが重要と考えられた。

3) 免疫抑制少量投与によるドナー特異的免疫抑制法の開発 (94 0730 4)

Tacrolimus 短期パルス反復投与による実験的移植腎維持の試み我々は一昨年までに、ラット同種腎移植モデルに Tacrolimus (FK506) を用い、以下を成果を得た。即ち・連日経口投与で 2 mg / kg が最も有効・術後第 4 病日から 5 mg / kg を 3 日間パルス投与後、無投与で 60 日以上移植腎の維持が可能、短期パルス投与後はドナー特異的な一過性免疫寛容状態となる。その機序としてクローナルデリーションの関与が考えられる。今回上記の知見に立脚し、短期パルス投与を一定の期間で反復することにより、ラット同種腎移植モデルの長期維持を試みた。WKAH ラットをドナー、Lewis ラットをレシピエントとした同種腎移植モデルを Tacrolimus 投与スケジュールで分類し、生存日数、病理組織学的検討を行った。各群は、30 日間隔で 5 mg / kg 3 日間パルス反復投与 (n = 4)、15 日間隔で 5 mg / kg 3 日間パルス反復投与 (n = 5)、7

日間隔で 5 mg / kg 3 日間パルス反復投与 (n = 5) , 4 日間隔で 5 mg / kg 3 日間パルス投与 2 回 , 後 1 mg / kg に減量し 2 日間パルス反復投与 (n = 5) した . その結果各群の平均生存日数は , 34 . 5 , 30 . 2 , 20 . 7 といずれも前回報告した 5 mg / kg 3 日間単回パルス投与群の平均生存日数 60 . 8 と比較し , 有意に短かった (p < 0 . 05) . しかし 4 日間隔の群では 100 日以上生存を得 , 移植腎病理組織では急性拒絶反応を認めなかった . これらの結果は適切な間隔でパルス投与を繰り返すことにより , 少ない総投与量で移植腎を維持し得ると考えられた .

4) ラットの кадミウムによる腎障害におけるアポトーシスの関与 (A97 0730 1)

昨年まで我々はラットにカドミウムの連日皮下投与を行い , 亜急性毒性による腎機能障害とアポトーシスの発現状況について組織学的 , 分子生物学的手法を用いて解析してきた . 前回の実験結果から腎機能障害は腎組織内に一定以上 (ほぼ 150 μg / g wet tissue) のカドミウムの蓄積が起こってから出現し , 障害の形態は巢状に尿細管の壊死性変性が起こることが主体であること , また TUNEL 法で障害が起こる初期に多くアポトーシスが確認され , 障害発生とアポトーシスの関連が示された .

今回カドミウム投与 3 週目と腎内カドミウム濃度が障害閾値であり , アポトーシスが多く見られた 150 μg / g wet tissue を超える 5 週目で投与を中止し , その後の組織所見 , 腎及び尿中カドミウム量の変化等を検討した結果 , 投与中止後も腎内カドミウム濃度が上昇したこと , 尿中カドミウム排泄は組織障害が明らかな間によく見られたこと . 投与中止後の 6 週目まで腎内カドミウム濃度の上昇が見られたが , 組織学的な障害は 5 週目のほうが明らかであったことなどが示された . カドミウムは肝にも蓄積され , 3 週投与の 1 群では肝 , 腎ともに蓄積可能な許容量にあつて血中濃度も低く , 腎障害も起きてこないが , 第 2 群においては , 4 週を過ぎる頃から許容量を超えることで腎組織の障害が出現し始め , 尿中への排出が行われると肝などに蓄積されたカドミウムも血液を介して腎に運ばれ , 投与終了後の 6 週目も腎組織濃度が上昇したと思われる . 6 週目は腎組織カドミウム濃度が上昇しているにも関わらず組織障害所見が 5 週目よりも少ないのは , 障害が単純に濃度依存性に出現しているのではない可能性を示している .

論 文

- 1 . Aoyagi, T., Naka, H., Miyaji, K., Hayakawa, K., Ishikawa, H., Hata, M. : Body mass index for chronic hemodialysis patients : Stable hemodialysis and mortality, *Int J Urol* **8** , S71 ~ S75 , 2001 . 原著
- 2 . 早川邦弘 : New York 腎移植医療事情 , *歯科学報* **101**(11) , 1017 ~ 1018 , 2001 . 臨床
- 3 . Shimizu, S.⁽¹⁾, Ueda, M.⁽¹⁾, Ozawa, S.⁽¹⁾, Wakabayashi, G.⁽¹⁾, Endo, M.⁽¹⁾, Hayakawa, K., Hata, M., Murai, M.⁽²⁾, Kitajima, M.⁽¹⁾ : Detection of IL - 2receptor gene expression in peripheral blood from renal transplant patients, *Surg Today* **31**(12) , 1058 ~ 1064 , 2001 . 原著 (1)慶大・医・外科, (2)慶大・医・泌尿器科
- 4 . 早川邦弘, 青柳貞一郎, 宮地系典, 畠 亮, 田中重光⁽¹⁾, 田中新樹⁽¹⁾ : 内視鏡下上腕部静脈表在化内シヤントの1例, *透析会誌* **35**(2) , 125 ~ 128 , 2002 . 症例 (1)本八幡腎クリニック
- 5 . 畠 亮 : カドミウムの腎及び骨に対する毒性のメカニズムに関する研究, *環境保険レポート*(68) , 298 ~ 300 , 2002 . 症例 実動施設
- 6 . 青柳貞一郎, 安次嶺聡, 宮地系典, 早川邦弘, 石川博通, 畠 亮 : 膀胱憩室腫瘍4例の治療経験, *泌尿器外科* **14**(5) , 563 ~ 566 , 2002 . 原著

そ の 他

- 1 . 畠 亮 : 市川医師会に入会してからの10年を振り返って, *市川市医師会会報* (97) , 33 ~ 34 , 2002 .

学会抄録

- 1 . 青柳貞一郎, 安次嶺聡, 宮地系典, 早川邦弘, 石川博通, 畠 亮 : ソフトシース膀胱鏡の試み : 膀胱鏡検査の疼痛軽減を目指して, *日泌会誌* **92**(2) , 372 , 2001 . (第89回日本泌尿器科学会総会, 神戸市)
- 2 . 早川邦弘, 安次嶺聡, 宮地系典, 青柳貞一郎, 畠 亮 : 機能的単腎に発生した腎盂腫瘍、膀胱腫瘍合併症例に施行した体外腎手術、自家腎移植の術式, *日泌会誌* **92**(2) , 386 , 2001 . (第89回日本泌尿器科学会総会, 神戸市)
- 3 . 青柳貞一郎, 安次嶺聡, 宮地系典, 早川邦弘, 石川博通, 畠 亮 : 軟性尿管鏡による生検で確定診断に至った腎盂腫瘍の一例, *第11回東葛南泌尿器カンファレンス抄録集* , 2001 . (第11回東葛南泌尿器カンファレンス, 浦安市)
- 4 . 早川邦弘, 安次嶺聡, 宮地系典, 青柳貞一郎, 畠 亮 : 透析患者における前立腺癌, *透析医会誌* **34** , 683 , 2001 . (第46回日本透析医学会学術集会, 大阪市)
- 5 . 青柳貞一郎, 安次嶺聡, 早川邦弘, 宮地系典, 石川博通, 畠 亮 : 透析患者の Body Mass Index の意義 短期生存率からみた検討 , *透析医会誌* **34** , 770 , 2001 . (第46回日本透析医学会学術集会・総会, 大阪市)
- 6 . Hayakawa, K., Miyaji, K., Aoyagi, T., Hata, M. : The vascular access graft by end-to-end anastomosis with deep vein for chronic hemodialysis, *Int Vasc Access*, 2001 . (The second International Congress of the Vascular Access Society, London, UK)

7. 安次嶺聡, 早川邦弘, 宮地系典, 青柳貞一郎, 石川博通, 畠 亮: 機能的単腎に発生した腎盂腫瘍、膀胱腫瘍合併症例に施行した体外腎手術、自家腎移植を施行した一例, 第17回腎移植・血管外科研究会抄録集, 2001。(第17回腎移植・血管外科研究会, 奈良市)
8. 早川邦弘, 安次嶺聡, 宮地系典, 青柳貞一郎, 畠 亮: 前腕深部静脈吻合人工血管内シャントの成績, 第17回腎移植・血管外科研究会抄録集, 2001。(第17回腎移植・血管外科研究会, 奈良市)
9. 早川邦弘, 安次嶺聡, 青柳貞一郎, 宮地系典, 畠 亮: 内視鏡下上腕静脈表在化内シャントの術式, 日内視鏡外会誌 6(7), 314, 2001。(第14回日本内視鏡外科学会, 札幌市)
10. 宮地系典, 石川博通, 安次嶺聡, 青柳貞一郎, 早川邦弘, 畠 亮: ヒト精漿および血漿中アデニルプリン構成比と精子先体反応へのプリン受容体の関与, 第66回日本泌尿器科学会東部総会抄録集, 2001。(第66回日本泌尿器科学会東部総会, 東京)
11. 早川邦弘, 畠 亮: 前立腺癌に対する重粒子線治療, 第66回日本泌尿器科学会東部総会抄録集, 2001。(第66回日本泌尿器科学会東部総会, 東京)
12. 青柳貞一郎, 早川邦弘, 宮地系典, 石川博通, 畠 亮: 脳磁図計(MEG)による外陰部刺激誘発磁場の測定, 第66回日本泌尿器科学会東部総会抄録集, 2001。(第66回日本泌尿器科学会東部総会, 東京)
13. 青柳貞一郎, 早川邦弘, 宮地系典, 石川博通, 畠 亮: ソフトシース膀胱鏡の実際と疼痛軽減効果, 第15回日本 Endourology・ESWL 学会総会抄録集, 2001。(第15回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 名古屋市)
14. 早川邦弘, 津覇美幸, 青柳貞一郎, 宮地系典, 畠 亮: 内視鏡下血管手術システムを利用した上腕静脈表在化内シャントの作成, 第15回日本 Endourology・ESWL 学会総会抄録集, 2001。(第15回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 名古屋市)
15. 青柳貞一郎, 津覇美幸, 宮地系典, 早川邦弘, 石川博通, 畠 亮: 透析患者の体格指数は若年者はやや小さめ, 高齢者は大きめがよい, 第29回千葉県透析研究会抄録集, 2001。(第29回千葉県透析研究会, 千葉市)
16. 早川邦弘: 血液透析患者における前立腺癌, 第9回東葛腎と代謝性疾患懇話会抄録集, 2001。(第9回東葛腎と代謝性疾患懇話会, 市川市)
17. 畠 亮: 臨床医の知っておきたい泌尿器科の知識, 第42回内科系臨床研究会抄録集, 2001。(第42回内科系臨床研究会, 東京都)
18. 早川邦弘, 津覇美幸, 青柳貞一郎, 宮地系典, 畠 亮: 腹腔鏡技術を応用した上腕部静脈表在化内シャント作成の術式, 第76回千葉泌尿器科集談会抄録集, 2001。(第76回千葉泌尿器科集談会, 千葉市)
19. 津覇美幸, 宮地系典, 青柳貞一郎, 早川邦弘, 石川博通, 畠 亮: 精索腫瘍との鑑別に苦慮した精索静脈瘤の一例, 第68回日本泌尿器科学会沖縄地方会抄録集, 2002。(第68回日本泌尿器科学会沖縄地方会, 那覇市)

14. 放射線科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 助 教 授 青柳 裕 高線量率小線源治療の臨床研究 (A99 0700 1)
 Microwave 組織内加温の基礎的研究および臨床応用 (A00 0700 1)
- 講 師 辰野 聡 整形外科領域における MRI 撮像法の最適化 (A99 0700 2)
- 助 手 清水 桜 整形外科領域における MRI 撮像法の最適化 (A99 0700 2)

2. 成果の概要

1) 高線量率小線源治療の臨床研究 (A99 0700 1)

現在まで、頭頸部腫瘍11例、食道癌9例、婦人科腫瘍16例、乳癌1例、転移性腫瘍1例、のべ120回の治療を行った。低線量率との線量率の違いによる生物学的効果を考慮して、至適1回線量、分割方法、至適総線量、外部照射との線量配分、線量評価点を検討する。

2) Microwave 組織内加温の基礎的研究および臨床応用 (A00 0700 1)

千葉大学工学部において Microwave 組織内加温装置の SAR、温度分布、加温アンテナの至適刺入間隔、必要な出力等についてコンピューターによる simulation とファントムを用いた測温による共同実験を行っている。この基礎実験により、組織内加温システムがある程度形づくられた後、平行して当科において臨床実験を行い最終的システムを構築する予定である。

AP - RASC 01 Conference Digest, 266, 2001.

3) 整形外科領域における MRI 撮像法の最適化 (A99 0700 2)

MRI は整形外科領域の診断に欠くことのできないモダリティとなっている。日常の臨床で、個々の症例に最適な撮像法を模索し、限られた装置の能力を最大限引き出す努力を行っている。そのほか、われわれは、前十字靭帯再建術後の移植腱の成熟度について MRI 所見と再鏡視を比較検討し、MRI (T 2 強調像矢状断像) が移植腱の状態を評価する上で優れた評価法であることを報告した。また、東京慈恵会医科大学本院放射線科と股関節関節唇損傷の評価法の検討を行っている。東京慈恵会医科大学柏病院放射線科と共同で、肩関節痛を有するスポーツ選手における上腕骨骨頭の subchondral cyst の臨床的意義について検討し、この嚢胞が腱付着部の反復運動によるストレスによるもの推定を得ている。

臨床画像 17(7), 814~828, 2001.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学 外 研 究 施 設		
		研究施設	所在地	責任者
青柳 裕	Microwave 組織内加温の研究	千葉大学工学部	千葉市	伊藤 公一
辰野 聡 清水 桜	整形外科領域における MRI 撮像法の最適化	東京慈恵会医科大学	東京	福田 国彦

解 説

1. 辰野 聡, 清水 桜, 萬 直哉⁽¹⁾, 福田国彦⁽¹⁾: 骨・関節・軟部, 臨床画像 7 17(7), 814~828, 2001. (1)慈恵医大・放科
2. 入江健夫⁽¹⁾, 辰野 聡, 西岡真樹子⁽¹⁾, 中田典生⁽¹⁾, 白川崇子⁽¹⁾, 宮本幸夫⁽¹⁾, 福田国彦⁽¹⁾: 超音波の関節疾患への利用, 臨床画像 17(11月増刊号), 24~30, 2001. (1)慈恵医大・放科
3. 辰野 聡: 神経由来の病変, 画像診断 22(3), 265~275, 2002.
4. 辰野 聡, 清水 桜, 青柳 裕, 田中陽一⁽¹⁾, 尾尻博也⁽²⁾, 福田国彦⁽²⁾: 神経由来の病変, 画像診断 22(3), 265~275, 2002. (1)市病・臨検, (2)慈恵医大・放科

単行図書

1. 辰野 聡^(a), 土屋一洋⁽¹⁾監修, 江原 茂⁽²⁾編集: 著分担: 3 骨軟部 CT・MRI 診断のキーワード137^(a)膝関節 154~174頁, MEDICAL VIEW, 東京, 2001. (1)杏林大・医・放科, (2)岩手医大・医・放科
2. 河野 敦⁽¹⁾編集, 辰野 聡^(a): 著分担: ポケット CT 診断アトラス^(a)頭頸部50~90頁, 中外医学社, 東京, 2001. (1)癌研
3. 青柳 裕^(a): 著分担: 放射線科専門医認定一次試験問題注釈 第五集^(a)放射線治療73~94頁, メディカル教育研究社, 東松山市, 2002.

そ の 他

1. 青柳 裕: がんになってしまったら, 健康アドバイス(12), 35~36, 2001.

学会抄録

1. Ito, K.⁽¹⁾, Saito, K.⁽¹⁾, Aoyagi, Y., Horita, H.: A Treatment System Combining Interstitial Microwave Hyperthermia and Interstitial Radiation Therapy, AP - RASC 01 Conference Digest, 266, 2001. (2001 Asia-Pacific Radio Science Conference, Tokyo) A00 - 0700 - 1 (1)Chiba Univ
2. 谷口 健⁽¹⁾, 斉藤一幸⁽¹⁾, 吉村博幸⁽¹⁾, 伊藤公一⁽¹⁾, 青柳 裕, 堀田洋稔: 組織内加温・組織内照射併用療法に用いる加温用アレーアプリケータに関する基礎的検討, 電子情報通信学会2001年通信ソサイティ大会講演論文集, 64, 2001. (電子情報通信学会2001年通信ソサイティ大会, 2001, 調布市) A00 - 0700 - 1 (1)千葉大・工・都市環境システム
3. 小林雅夫⁽¹⁾, 兼平千裕⁽¹⁾, 福田一郎⁽¹⁾, 青木 学⁽¹⁾, 関根 広⁽¹⁾, 砂川好光⁽¹⁾, 中川昌之⁽¹⁾, 青柳 裕: 鼻前庭扁平上皮癌に対する小線源治療経験, 日本医放会誌 62(3), 190, 2002. (第61回日本医学放射線学会学術発表会, 神戸市) (1)慈恵医大・放科

15. 麻 醉 科 学 研 究 室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 助 教 授 小坂橋俊哉 プロポフォール麻酔中脳波の定量的解析 (A96 0740 1)
助 手 梅村 直治 ブトルファノール併用, 低用量ロピバカイン硬膜外腔持続注入による術後鎮痛
助 手 渡辺 陽子

2. 成果の概要

1) プロポフォール麻酔中脳波の定量的解析 (A96 0740 1)

脳波所見を指標に各麻酔薬の麻酔深度を定量する試みを行った。吸入麻酔薬では、セボフルラン・イソフルランで容量依存性の脳波変化を示すことが判明し、臨床使用濃度で容易に burst suppression を生じることが示した。静脈麻酔薬ではプロポフォールを用い、通常の持続静注速度では脳波上、有意の変化を示さないことを報告した。しかし、この状態に笑気を併用すると脳波は有意に徐波化することから、プロポフォール単独では麻酔深度が深くないことを示した。

慶応医学 70, 257~264, 1993.

臨床麻酔 24, 1911~1915, 2000.

2) 帯状疱疹後神経痛に対する硬膜外ステロイド投与

慢性疼痛疾患にステロイドを投与して有効であったという報告は多い。そこで、帯状疱疹後神経痛を含む帯状疱疹患者の当該神経支配領域にステロイドを投与して、その有効性を評価する。ステロイド投与の有効性については既に報告したが、ステロイドによる好中球増多症がみられることから、今後は免疫系との関連を調査していきたい。

3) 硬膜外腔に注入された局所麻酔薬のくも膜下腔移行の研究

硬膜外腔に注入された局所麻酔薬がくも膜下腔に拡散することは古くから知られた事実である。しかしその局麻薬の硬膜外腔への拡散が、加齢によりどのような影響をうけるのかは知られていないため、その解明をしていきたい。

4) ブトルファノール併用, 低用量ロピバカイン硬膜外腔持続注入による術後鎮痛 (A02 0740 2)

新しい長時間作用型の局所麻酔薬であるロピバカインは、従来用いられて来たブピバカインと比較して中枢毒性や心毒性が低いことが特徴である。ロピバカインを術後鎮痛目的で硬膜外腔へ持続注入する場合には、0.2%溶液を 6 ml/hr の速度で使用することが推奨されているが、大容量の持続注入器を必要とすることが欠点として挙げられる。そこで当研究では、拮抗性鎮痛薬であるブトルファノールをロピバカインに併用することによって、持続注入速度を減少させることが可能か否か術後痛の程度から検討する。さらに、年齢による鎮痛効果の差があるかを調べ、年齢に応じた硬膜外腔注入薬の内容について考察する。

単行図書

1. 小坂橋俊哉^(a): 著分担: 肥満細胞の臨床^(a)色素性蕁麻疹の麻酔管理323~329頁, 先端医学社, 東京, 2001.

学会抄録

1. 小坂橋俊哉, 梅村直治, 瀧野善夫: BIS モニター上, Suppression Ratio(SR)40以上で SR と BIS 値は相関する, J Anesth 15(Suppl), 18, 2001.(日本麻酔学会第48回大会, 神戸市)
2. 鈴木麻衣子, 小坂橋俊哉, 梅村直治, 瀧野善夫: 硬膜外麻酔は Bispectral Index を低下させる, J Anesth 15(Suppl), 19, 2001.(日本麻酔学会第48回大会, 神戸市)
3. 梅村直治, 小坂橋俊哉, 瀧野善夫: 硬膜外腔に注入したリドカインのクモ膜下移行は時間と年齢に相関する, J Anesth 15(Suppl), 67, 2001.(日本麻酔学会第48回大会, 神戸市)
4. 瀧野善夫: 硬膜外麻酔はクモ膜下腔で効く, 日本麻酔・薬理学会雑誌 13(1), 27, 2001.(日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 東京)
5. 小坂橋俊哉: 心房性ナトリウム利尿ペプチド update, 日本麻酔・薬理学会雑誌 13(1), 77, 2001.(日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 東京)
6. 鈴木麻衣子, 小坂橋俊哉, 梅村直治, 大木貴博⁽¹⁾, 高橋正憲⁽²⁾, 瀧野善夫: 肺血栓塞栓症によって死亡した大腿骨骨折の一例, 日本麻酔・薬理学会雑誌 13(1), 87, 2001.(日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 東京)(1)市病・循環器科, (2)市病・整形外科
7. 堀田美佐子⁽¹⁾, 小坂橋俊哉, 鈴木麻衣子, 梅村直治, 瀧野善夫, 武田純三⁽¹⁾: 人工呼吸器管理中に, Bispectral Index を指標としてプロポフォル投与量を調節した一症例, 日本麻酔・薬理学会雑誌 13(1), 88, 2001.(日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 東京)(1)慶大・医・麻酔
8. 森崎重規⁽¹⁾, 小坂橋俊哉, 梅村直治, 瀧野善夫, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 金子 譲⁽²⁾: 顎変形症手術, 術後痛の評価(ストレス関連ホルモンの動態も含めて), 第41回日本麻酔学会関東甲信越地方会抄録集, 114, 2001.(第41回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 大宮市)(1)市病・オーラルメディスン, (2)歯麻
9. 逢坂佳宗, 小坂橋俊哉, 梅村直治, 瀧野善夫: 麻酔導入後, アナフィラキシーショックから間質性肺水腫を来した1症例, 第41回日本麻酔学会関東甲信越地方会抄録集, 150, 2001.(第41回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 大宮市)
10. 小坂橋俊哉: 明日から始められる TCI, 日臨麻会誌 21(8), S238, 2001.(日本臨床麻酔学会第21回大会, 横浜市)
11. 小坂橋俊哉, 逢坂佳宗, 梅村直治, 瀧野善夫: プロポフォル注入時痛の記憶をミダゾラムは消失させるか, 日臨麻会誌 21(8), S385, 2001.(日本臨床麻酔学会第21回大会, 横浜市)
12. 逢坂佳宗, 梅村直治, 小坂橋俊哉, 瀧野善夫: 自発呼吸下 ETCO₂ とプロポフォル血中濃度, 予測効果部位濃度, BIS との関係, 第5回新年教室研究会プログラム, 1, 2002.(慶應義塾大学病院麻酔学教室第5回新年教室研究会, 東京)

13. 瀧野善夫：中位胸椎硬膜外腔穿刺～私の方法，MLA の紹介～，第 8 回硬膜外研究会抄録集，26，2002。(第 8 回硬膜外研究会，札幌市)
14. 小坂橋俊哉，瀧野善夫：Bispectral Index モニタの問題点，臨モニター 13(Suppl)，27，2002。(第13日本臨床モニター学会総会，横浜市)
15. 小坂橋俊哉：第 2 回歯科医師のためのモニタリング講座 ～ 2 . モニターの危険なサインとその治療～，臨床モニター小冊子 2，2，2002。(第13日本臨床モニター学会総会，横浜市)

16. 精神・神経科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

助 教 授	加藤元一郎	臨床精神医学, 神経心理学 (A 98 415 1)
講 師	吉野 文浩	臨床精神医学, 神経心理学 (A 98 415 2)
病院助手	加藤 隆	臨床精神医学, 神経心理学 (A 98 415 3)
	秋山 知子	臨床精神医学, 神経心理学 (A 98 415 4)
臨床研修医	小松崎良子	臨床精神医学, 神経心理学 (A 98 415 5)

2. 成果の概要

1) 神経心理学 (A 98 415 1 , A 98 415 2 , A 98 415 3 , A 98 415 4 , A 98 415 5)

エピソード記憶および意味記憶障害, 前頭葉機能障害を中心とした, 脳損傷患者に関する臨床的な研究を継続している.

3. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演 題	学会名	開催地
加藤元一郎	2001 . 5 . 11	注意の神経学	第42回日本神経学会総会	東京都
加藤元一郎	2001 . 5 . 24	認知リハビリテーションと理学療法	第36回日本理学療法学会大会	広島市
加藤元一郎	2001 . 7 . 8	高次機能障害の診断と治療 特に TBI (traumatic Brain Injury 頭部外傷後遺症) について	北海道精神神経学会第99回例会	札幌市
加藤元一郎 吉野 相英	2001 . 7 . 20	アルコール依存症の診断ガイドライン	第13回日本アルコール精神医学会	金沢市
加藤元一郎	2001 . 7 . 20	前頭葉眼窩部損傷による人格・行動変化とソマティック・マーカー仮説	第 6 回認知神経科学会	東京都
加藤元一郎	2001 . 8 . 25	前頭葉機能の評価	第12回静岡リハビリテーション医学会認定臨床医生涯教育研修会	静岡市
加藤元一郎	2001 . 9 . 13	認知リハビリテーション	第25回日本神経心理学会総会	神戸市
加藤元一郎	2001 . 10 . 25	Neuroanatomical and neuropsychological study of Korsakoff's syndrome and basal forebrain amnesia.	International Symposium on Frontiers of Human Memory	仙台市
加藤元一郎	2001 . 11 . 7	記憶研究の深化と拡がり 精神医学から	日本心理学会第65回大会	つくば市
加藤元一郎 加藤 隆	2002 . 3 . 1	口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究 MEG で何がわかったか? PART 2	第13回東京歯科大学口腔科学研究センター, ワークショップ	千葉市

論 文

1. 永井知代子⁽¹⁾, 岩田 誠⁽¹⁾, 松岡瑠美子⁽²⁾, 加藤元一郎: Williams 症候群の視覚認知障害 - なぜトレースでき
て模写できないか?, 神心理 17(1), 36~44, 2001. 原著 (1)東女医大・脳神経センター, (2)東女医大・循環器
小児科
2. 森山 泰⁽¹⁾, 加藤元一郎: 前頭葉症候群, Mod Physician 21(3), 288~292, 2001. 総説 (1)駒木野病院・精神科
3. 森山 泰⁽¹⁾, 吉野相英⁽²⁾, 三村 將⁽³⁾, 加藤元一郎, 吉村直記⁽¹⁾, 原 常勝⁽¹⁾, 鹿島晴雄⁽⁴⁾: アルコール離脱期の
低血糖について - 典型例と非典型例の比較から, 精神医 43, 1007~1010, 2001. 原著 (1)駒木野病院, (2)防
衛医大・精神, (3)昭和大・医・精神, (4)慶大・医・精神神経
4. Umeda, S.⁽¹⁾, Akine, Y., Kato, M.: False recognition in the patients with ventromedial prefrontal cortex,
Brain Cog 47, 362~365, 2001. 原著 (1)慶大・文
5. Mimura, M.⁽¹⁾, Komatsu, S.⁽²⁾, Kato, M., Umeda, S.⁽³⁾, Saitou, F., Kashima, H.⁽⁴⁾: Directed forgetting effect in pa-
tients with frontal lobe damage, Brain Cog 47, 343~346, 2001. 原著 (1)昭和大・医・精神, (2)信州大, (3)
慶應大・文, (4)慶大・医・精神神経
6. 金敷大之⁽¹⁾, 藤田哲也⁽²⁾, 齊藤 智⁽³⁾, 加藤元一郎: 運動パターンの作動記憶 二重課題法における身体運動
スパンと手指運動スパンの比較から, 心理研 72(6), 522~527, 2002. 原著 (1)関西大・大学院, (2)光華女
子大・文, (3)大阪教育大・心理

解 説

1. 加藤元一郎: 前頭葉眼窩損傷による人格・行動変化とソマティック・マーカー仮説, 認知神経科学 3(2), 105
~108, 2001.
2. 前田貴記⁽¹⁾, 加藤元一郎, 村松太郎⁽²⁾, 鹿島晴雄⁽²⁾: グラフィック・ロールシャッハ・テスト(慶応版) - 視知
覚の体制化の神経心理学的検査法, 脳と精の医 12, 149~155, 2001. (1)桜ヶ丘記念病院, (2)慶大・医・精神
神経
3. 加藤 隆, 加藤元一郎, 鹿島晴雄⁽¹⁾: ギャンブリング課題 - 前頭葉眼窩部機能障害を検出する検査法, 脳と
精の医 12, 157~163, 2001. (1)慶大・医・精神神経
4. 加藤元一郎, 鹿島晴雄⁽¹⁾: 高次脳機能回復のストラテジー, 老年精医誌 12, 1288~1295, 2001. (1)慶大・
医・精神神経
5. 加藤元一郎: ソマティック・マーカー仮説と前頭葉腹内側部の機能, Brain Med 13(1), 63~70, 2001.
6. 加藤元一郎, 若松直樹⁽¹⁾: アルツハイマー病の病初期における認知リハビリテーション, 精神科治療 16
(5), 443~450, 2001. (1)駒木野病院
7. 加藤元一郎: 前頭葉と情動 - 特に眼窩脳の機能について, 神心理 17, 110~120, 2001.
8. 加藤元一郎: 描画機能と右半球障害, Clin Neurosci 19(4), 418~422, 2001.

9. 吉野文浩, 加藤元一郎: 眼の老化による精神面への影響, 眼科ケア 21, 53~60, 2001.
10. 加藤元一郎: 情動と前頭葉眼窩野, 脳の科学 23, 449~459, 2001.
11. 加藤元一郎: 神経心理学的リハビリテーション, 脳の科学 23, 1113~1116, 2001.
12. 加藤元一郎: 認知機能障害の治療, Medicina 38(8), 1309~1311, 2001.
13. 加藤元一郎: 前脳基底部病変と記憶障害, 神研の進歩 45(2), 184~197, 2001.
14. 加藤元一郎: 高次視知覚検査, Annual Review 2001神経, 41~48, 2001.

単行図書

1. 加藤元一郎: 単著: 認知訓練, リハビリテーション MOOK 4, 高次脳機能障害とリハビリテーション, 金原出版, 東京, 2001.
2. 加藤元一郎: 単著: 記憶障害と健忘症のリハビリテーションはここまで変わった, 高次神経障害の臨床はここまで変わった, 医学書院, 東京, 2001.
3. 加藤元一郎: 単著: 知能と記憶, 看護のための最新医学講座, 第27巻, リハビリテーション・運動療法, 中山書店, 東京, 2002.
4. 加藤元一郎: 単著: 意欲・発動性の障害と情動障害, 看護のための最新医学講座, 第27巻, リハビリテーション・運動療法, 中山書店, 東京, 2002.

学会抄録

1. 加藤元一郎: 認知リハビリテーションと理学療法, 理学療法学 1, 103, 2001. (第36回日本理学療法学会大会, 広島市)
2. 加藤元一郎: 前頭葉眼窩部損傷による人格・行動変化とソマティック・マーカー仮説, 認知神経科学 3, S23, 2001. (第6回認知神経科学会, 東京)
3. 秋山知子, 加藤元一郎, 加藤 隆, 吉野文浩, 斉藤文恵, 三村 将⁽¹⁾, 村松太郎⁽²⁾, 鹿島晴雄⁽²⁾: 扁桃体損傷における表情認知および視線方向判断の障害, 神心理 17, 276, 2001. (第25回日本神経心理学会総会, 神戸市) (1)昭和大・医・精神, (2)慶大・医・精神神経
4. 加藤 隆, 梅田 聡⁽¹⁾, 加藤元一郎, 秋根良英, 吉野文浩: 前頭葉内損傷部位によるギャンプリング課題成績の解離について, 神心理 17, 302, 2001. (第25回日本神経心理学会総会, 神戸市) (1)慶大・文
5. 吉野文浩, 加藤元一郎, 斉藤文恵, 三村 将⁽¹⁾, 鹿島晴雄⁽²⁾: アルツハイマー型痴呆における意味記憶障害の構成要素 - 主成分分析による検討, 失語症研 22, 73~74, 2002. (第25回日本失語症学会総会, 大阪市) (1)昭和大・医・精神神経, (2)慶大・医・精神神経

17. 臨 床 検 査 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 助 教 授 田中 陽一 舌早期癌の病理学的研究 免疫組織化学およびパノラマ連続写真を用いた上皮内
伸展癌について (A97 0780 1)
口腔癌の病理組織学的研究 特に病理学的検索と予後との関係について
(A97 0780 2)
- 助 手 寺山 清美 脳卒中易発生性自然発症高血圧ラット (SHRSP/HOS) を用いた血圧上昇抑制な
らびに抗動脈硬化作用の検討 (A02 0780 4)

2. 成果の概要

1) 舌早期癌および口腔癌の病理学的研究

舌早期癌 File を含め、口腔癌の Bread loaf step sectioning (BLSS) による詳細な検索は平成13年度に新たに追加された症例を含めて200例を越えた。現在組織学的な評価の項目を見直し、新たな評価法基準を作成中であるが、それと平行して、日本口腔腫瘍学会口腔癌 Working group において、臨床的な項目を含めた取り扱い規約的な評価法を検討している。今後はこの Working group でのデータを中心に研究を進めることとなる。標準化への大きな前進で、手術材料の sampling 法に関しては、ほぼ全容を報告。また口腔癌の病理組織学的研究 (A97 0780 2) で行ってきた臨床視診などの臨床データとの対比は Group の基本データとなる。口腔癌取り扱い指針 (仮称) において、今後画像情報を含む臨床所見、手術所見、病理所見を共通の基準で正確に記載するための基本データとなる。具体的な作業は今年度から開始された。

歯科学報 101(II), 1008~1016, 2001.

2) 脳卒中易発生性自然発症高血圧ラット (SHRSP/HOS) を用いた血圧上昇抑制ならびに抗動脈硬化作用の検討

高脂肪食を負荷した脳卒中易発症性高血圧ラット (SHRSP/HOS) を用い、試験対象物を投与することによる血圧上昇抑制ならびに抗動脈硬化作用について検討し、現在進行中である。SHRSP/ラットは高血圧を自然発症するとともに高脂肪食負荷により高脂血症をきたすことから、大動脈や脳底動脈等の筋型動脈に病変を起こしやすいことが知られているが、このモデル動物を用い提出された検体、試験対象物投与による血圧上昇抑制ならびに抗動脈硬化作用についての検討を行っている。Control 群と試験対象群について収縮機血圧と拡張期血圧差の測定、生化学検査における ACE 活性、血中コレステロールおよびトリグリセリド値、過酸化脂質の測定値、免疫組織化学的染色法を用いて内膜病変の組織学的検討を行っている。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
田中 陽一	歯原性腫瘍の免疫染色の特徴	明海大学	坂戸市	田島 義文
田中 陽一	早期食道癌の臨床・病理組織学的検討	国立療養所久里浜病院	横須賀市	横山 顕
寺山 清美	脳卒中易発生性自然発症高血圧ラット (SHRSP/HOS) を用いた血圧上昇抑制ならびに抗動脈硬化作用の検討	有限会社天然素材探索研究所	東京都	栗田 源彦

4 . 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究 課 題	研究 費
横山 顯	早期食道癌の臨床・病理組織学的検討	班研究費

5 . 教育講演等教育に関する業績，活動

教育講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
田中 陽一	2001 . 8 22	認定口腔病理試験における全身疾患の病理 全身疾患に関する組織診断問題についての解説	第12回日本口腔病理学会	鹿児島市

論 文

1. 落合大樹⁽¹⁾, 石 志紘⁽¹⁾, 吉野肇一⁽¹⁾, 服部裕昭⁽¹⁾, 小川信二⁽¹⁾, 小野成夫⁽¹⁾, 田中豊治⁽¹⁾, 岸川 浩⁽²⁾, 西田次郎⁽²⁾, 田中陽一, 小出 紀, 北島政樹⁽³⁾: 小腸内視鏡で術前診断し得た空腸癌の1例, *Prog Digestive Endoscopy* **58**(2), 110~111, 2001. 症例 (1)市病・外科, (2)市病・内科, (3)慶大・医・外科
2. 高木 実⁽¹⁾, 向後隆男⁽²⁾, 久山佳代⁽³⁾, 瀬戸皖一⁽⁴⁾, 田中陽一, 朔 敬⁽⁵⁾, 程 王君⁽⁵⁾, 鈴木 誠⁽⁵⁾, 宮武光吉⁽⁶⁾, 山本浩嗣⁽³⁾, 福山 宏⁽⁷⁾: 一般歯科臨床における口腔病理検査の意義と有用性, 歯界展望 **97**(4), 887~897, 2001. 総説 (1)東医歯大・歯・口腔病理, (2)北大・大学院・口腔病態, (3)日大・松戸歯・病理, (4)鶴見大・歯・口外, (5)新潟大・歯・口腔病理, (6)鶴見大・歯, (7)九州歯大・口腔病理
3. 田中陽一, 宜保一夫, 小野田雅美, 荒井義雄, 伊藤由美⁽¹⁾, 小出 紀: 腺房細胞癌の growth pattern による細胞像, *日臨細胞誌* **40**(4), 411~417, 2001. 原著 (1)神歯大・口腔病理
4. 岩淵博史⁽¹⁾, 高森康次⁽¹⁾, 本間宏昌⁽¹⁾, 朝波惣一郎⁽¹⁾, 田中陽一: Nedaplatin と5-Fluorouracil の併用投与が著効を示した下顎歯肉癌 T4N0M0の1例, *癌と化療* **28**(9), 1273~1276, 2001. 臨床 (1)慶大・医・歯口外
5. 田中陽一: 標準化に向けた口腔癌の病理組織学的検索 特に舌癌切除材料の Breadloaf step sectioning (BLSS)法, *歯科学報* **101**(11), 1008~1016, 2001. 総説
6. 田中陽一: 舌癌手術材料の取り扱い Breadloaf step sectioning を用いた舌癌手術材料の検索, *日口腔腫瘍会誌* **13**(6), 57~58, 2001. 総説
7. Nakajima, T.⁽¹⁾, Terashima, T.⁽¹⁾, Nishida, J.⁽¹⁾, Onoda, M., Koide, O.: Treatment of bronchorrhea by corticosteroids in a case of bronchioloalveolar carcinoma producing CA 19 - 9, *Internal Medicine* **41**(3), 225~228, 2002. 原著 (1)市病・内科
8. 岩淵博史⁽¹⁾, 内山公男⁽²⁾, 朝波惣一郎⁽¹⁾, 田中陽一: 慢性菌性上顎洞炎に対するプロナーゼ, カルボシステイン, ロキシシロマイシンの併用長期投与療法 - 第2報有効例と無効例の比較, *日口腔科会誌* **50**(6), 371~376, 2002. 原著 (1)慶大・医・歯口外, (2)国立栃木病院・歯口外

学会抄録

1. Ito, Y.⁽¹⁾, Abiko, Y.⁽²⁾, Arakawa, T.⁽³⁾, Rahemtulla, F.⁽⁴⁾, Tanaka, Y.: Expression pattern of versican in odontogenic tumor, *J Dent Res* **80**(Special Issue (IADR Abstracts)) 632, 2001. (IADR 79th General Session and Exhibition, Chiba, Japan) (1)神歯大・口腔病理, (2)北医療大・口腔病理, (3)北医療大・口腔生化学, (4)University of Alabama
2. 伊藤由美⁽¹⁾, 長島洋治⁽²⁾, 田中陽一, 加藤啓輔⁽³⁾, 田中祐吉⁽³⁾: 硬組織形成とメラニン沈着を伴った原発性上顎骨内癌の小児例, *日病理会誌* **90**(1), 345, 2001. (第90回日本病理学会総会, 東京) (1)神歯大・口腔病理, (2)横浜市立大・医・病理, (3)神奈川県立こども医療センター・病理

3. 岩淵博史⁽¹⁾, 高森康次⁽¹⁾, 内山公男⁽²⁾, 百島裕貴⁽³⁾, 田中陽一, 朝波惣一郎⁽¹⁾: MRI による舌癌頸部リンパ節転移の予測 N0症例の検討, 頭頸部腫瘍 27(2), 392, 2001. (第25回頭頸部腫瘍学会, 東京) (1)慶大・医・歯口外, (2)国立栃木病院・臨歯口外, (3)慶大・医・放射線診断科
4. 中村直史⁽¹⁾, 武安嘉大⁽¹⁾, 佐藤一道⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一: 口蓋の唾液腺腫瘍を疑った necrotizing sialometaplasia, 頭頸部腫瘍 27(2), 560, 2001. (第25回頭頸部腫瘍学会, 東京) (1)市病・オーラルメディスン
5. 森本光明⁽¹⁾, 岡村泰斗⁽¹⁾, 奥原康行⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 福島大平⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一, 高橋慎一⁽²⁾: 口腔粘膜に症状を有した尋常性天疱瘡の診断 抗デスメグレイン抗体価測定の臨床的意義, 第11回日本口腔粘膜学会・学術集会プログラム・抄録集 11, 50, 2001. (第11回日本口腔粘膜学会, 広島市) (1)市病・オーラルメディスン, (2)市病・皮膚科
6. 田中吉治⁽¹⁾, 島田隆光⁽¹⁾, 木津康博⁽¹⁾, 福島大平⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一: 短期間に著名な増大を認めた膿原性肉芽腫の一例, 日口腔外会誌 47(7), 473, 2001. (第170回日本口腔外科学会関東地方会, 東京) (1)市病・オーラルメディスン
7. 渋谷昌幸⁽¹⁾, 岡村泰斗⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一: 著明な紅斑を呈した歯科金属アレルギーによる接触性粘膜炎の1例, 日口腔科会誌 50(5), 345, 2001. (第34回日本口腔科学会関東地方部会, 東京) (1)市病・オーラルメディスン
8. Tanaka, Y., Iwabuchi, H.⁽¹⁾, Ito, Y.⁽²⁾: Orthokeratinized odontogenic keratocyst: Clinicopathologic presentation of ten cases, Oral Surg Oral Med Oral Pathol 92(5), 547~548, 2001. (55th annual meeting of American Academy of Oral and Maxillofacial Pathology, Chicago, USA) (1)慶大・医・歯口外, (2)神歯大・口腔病理
9. 佐藤一道⁽¹⁾, 岡崎雄一郎⁽¹⁾, 森崎重規⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一: 4NQO ラット発癌モデルを用いた早期舌癌における β -catenin の局在に関する検討, 歯科学報 101(10), 925, 2001. (第272回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 実動施設 (1)市病・オーラルメディスン
10. 片山明彦⁽¹⁾, 矢郷 香⁽¹⁾, 鈴木 純⁽¹⁾, 本間宏昌⁽¹⁾, 岡田明子⁽¹⁾, 岡田 豊⁽¹⁾, 朝波惣一郎⁽¹⁾, 田中陽一: 悪性転化をきたした口蓋多形性腺腫の1例, 日口腔科会誌 50(6), 434~435, 2001. (第55回日本口腔科学会総会・学術大会, 盛岡市) (1)慶大・医・歯口外
11. Tada, K.⁽¹⁾, Tonogi, M.⁽¹⁾, Yamane, G.⁽¹⁾, Tanaka, Y.: A case of nerve sheath myxoma on the hard palate, Oral Med Pathol 6(2), 110, 2001. (第12回日本口腔病理学会総会・学術大会, Kagosima, Japan) (1)市病・オーラルメディスン
12. 迫田和彦, 佐野奈津子, 佐藤俊明⁽¹⁾, 大木貴博⁽¹⁾, 船津陽子⁽¹⁾, 佐伯公子⁽¹⁾: たこつぼ型心筋症様の経過を示した周産期心筋症の1例, 超音波医 29(1), 42~43, 2002. (日本超音波医学会第13回関東甲信越地方会, 東京) (1)市病・循環器科
13. 倉繁昌志⁽¹⁾, 大塚 裕⁽¹⁾, 小澤靖弘⁽¹⁾, 森本光明⁽¹⁾, 外木守雄⁽¹⁾, 山根源之⁽¹⁾, 田中陽一: 線維性エプーリスと診断され切除後再発を繰り返した粘液腫の1例, 日口腔外会誌 48(1), 54, 2002. (第171回(社)日本口腔外科学会関東地方会, 松戸市) (1)市病・オーラルメディスン

14. 伊藤由美⁽¹⁾, 佐藤一芳⁽¹⁾, 小園 知⁽¹⁾, 田中陽一: エナメル上皮腫における IGF - 1R と MMP - 9 の発現, 日病理会誌 91(1), 300, 2002. (第91回日本病理学会総会, 横浜市) (1)神歯大・口腔病理
15. 下田将之⁽¹⁾, 亀山香織⁽¹⁾, 田中陽一, 橋口一弘⁽²⁾, 岡田保典⁽¹⁾: 悪性転化をきたした乳頭状唾液腺腫に一例, 日病理会誌 91(1), 302, 2002. (第91回日本病理学会総会, 横浜市) (1)慶大・医・病理, (2)北里研究所病臨耳鼻咽喉科